

77A-85

滋賀縣
現行

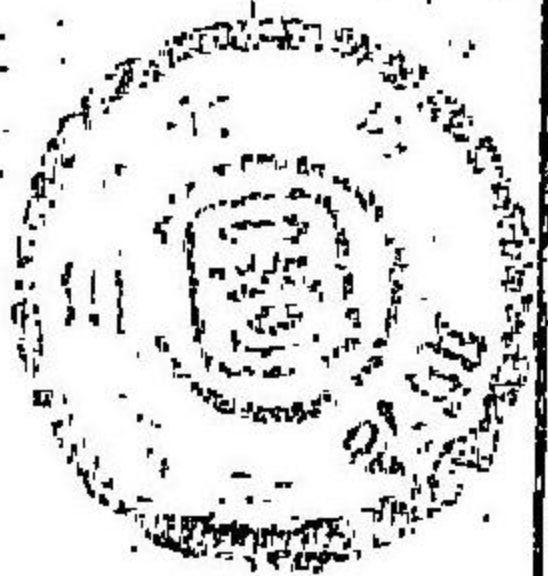
違敬言罪規則類集

附法規提要

持/5
41

橫畑耕夫校訂

村上彌太郎編輯



滋賀縣
現行
違警罪規則類集

附法規提要

天津商報社藏版

滋賀縣 違警罪規則類集附法規提要

凡 例

- 一本編ハ滋賀縣令達ニシテ拘留科料ノ制裁ヲ付シタルモノハ勿論其制裁ナキモノト雖モ苟モ必要ト思料スル諸規則ハ總テ之ヲ網羅シ校正増補ノ上編纂レタルモノナリ
- 一本則ニ關連スル法律若クハ規則命令ニシテ參照ヲ要スルモノハ各則ノ次ニ登載ス
- 一本則ニ關連セサル事項ト雖モ執務者ノ便益ヲ圖リ一般有益ノ法令ハ悉ク之ヲ採萃シテ冊尾ニ掲記ス

一本編ハ明治二十九年一月末日迄ノ現行ニシテ諸令違ノ
 改廢ニ關スル條項ハ之ヲ省畧シ改正追加ハ其現行法文
 ナ掲載ス

明治二十九年二月

編者識

現行 違警罪規則類集 附法規提要

目次

● 違警罪目	一	丁
(参照) 刑法違警罪	四	丁
● 古物商取締法及全細則施行規則	十	丁
(参照) 古物商取締法細則	二十一	丁
(参照) 古物商取締法	二十五	丁
● 質屋取締法及全細則施行規則	二十八	丁
(参照) 質屋取締法細則	四十一	丁
(参照) 質屋取締法	四十二	丁
● 屑物商取締規則	四十六	丁
● 印刷師取締規則	五十一	丁
● 湯屋取締規則	五十四	丁
● 劇場寄席取締規則	五十六	丁
● 觀物場取締規則	六十	丁

●遊技場取締規則	六十三丁
●藝妓舞子營業規則	六十六丁
●貸座敷及娼妓營業取締規則	六十七丁
●料理屋飲食店取締規則	七十四丁
●酌人取締規則	七十五丁
●娼妓體毒檢查規則	七十七丁
●賦命規則	八十一丁
●屈人受宿取締規則	八十三丁
●瘋癲人取締規則	八十六丁
●家屋建築規則	八十八丁
●街路取締規則	百一丁
●乘合馬車營業取締規則	百十一丁
●人力車營業取締規則	百二十一丁
●宿屋取締規則	百三十三丁
●運送營業取締規則	百四十五丁
●新聞雜誌雜報受賣取締	百五十四丁

●威銃免許取締規則	百五十五丁
●狩獵一關又二關屆手續	百五十七丁
●狩獵一關又二關屆取扱手續	百六十一丁
●(參照)狩獵法取扱手續	百六十三丁
●(參照)狩獵法施行細則	百六十七丁
●(參照)狩獵法	百七十一丁
●屠場取締規則	百七十六丁
●駝牛馬取扱規則	百八十一丁
●駝牛馬割割營業取締規則	百八十二丁
●牛馬宿又飼養營業願出方	百八十六丁
●獸肉販賣取締規則	全丁
●獸乳營業規則	百八十八丁
●冰雪營業規則	百九十七丁
●賣藥部外製劑營業規則	二百二丁
●藥種商及製藥者取締規則	二百五丁
●(參照)藥品營業并藥品取規則	二百七丁

- (參照)藥品巡視規則……………二百十四丁
- (參照)毒藥劇藥……………二百十五丁
- (參照)賣藥規則……………二百二十丁
- (參照)賣藥印紙規則……………二百二十四丁
- 藥局ヲ開設セシメシテ藥品ノ販賣製造ノ業ヲ營マントスルモノ届出方……………二百二十七丁
- 格付兒酸加消誤ヲ發賣授受セントスルノ届出方……………二百二十八丁
- 産婆取締規則……………二百二十九丁
- 産婆試験規則……………二百三十二丁
- 鍼灸術并ニ按摩營業取締規則……………二百三十六丁
- 灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方劑使用禁止……………二百三十九丁
- 入歯齒抜口中療治接骨營業取締規則……………二百四十四丁
- 傳染病豫防細則……………二百四十一丁
- 傳染病豫防法施行手續……………二百五十一丁
- 傳染病消毒法……………二百六十三丁
- (參照)傳染病豫防規則……………二百七十三丁
- 百斯士豫防規則……………二百七十七丁

- (參照)汽車檢疫心得……………二百八十三丁
- (參照)虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方……………二百八十四丁
- (參照)虎列刺病流行地方ヨリ古習禮禮ヲ他ノ健康地方ニ輸送スルヲ禁セシム……………二百八十五丁
- (參照)虎列刺病流行ノ際行軍ノトキハ證明書ヲ要ス……………二百八十五丁
- (參照)虎列刺其外傳染病毎週申報方……………二百八十五丁
- (參照)傳染病豫防救濟ニ備使スル醫師以下感染及死亡手當規則……………二百八十六丁
- 町村清潔法施行規則……………二百八十八丁
- 種痘細則……………二百九十丁
- (參照)種痘規則……………三百四丁
- (參照)種痘施術心得書……………三百五丁
- 墓地及埋葬取締細則……………三百十二丁
- (參照)墓地及埋葬取締規則……………三百二十一丁
- 水車營業規則……………三百二十二丁
- 碇廻受賣規則……………三百二十四丁
- 自家用料酒免許證札ヲ檢セシメシテ發給ヲ賣渡スヘカラル禁令……………三百二十五丁
- 酒造營業者取締……………三百二十六丁

●米費改良組合取締規則	全
●漁絲業取締規則	三百三十丁
●度量衡器取締規則	三百三十三丁
●度量衡器取締施行順序	三百四十四丁
(參照)度量衡檢定規程	三百四十二丁
(參照)度量衡法	三百六十丁
●雜物業取締規則	三百六十八丁
●同業組合準則	三百七十丁
●市場取締規則	三百七十二丁
●陸上用蒸氣機關檢査規則	三百七十五丁
●旅客和船取締規則	三百七十九丁
●湖上漁船取締規則	三百七十二丁
●湖川漁魚採藻泥取締規則	三百九十四丁
●湖川漁魚採藻稅則	四百九十一丁
●六寸未満ノ鯉其他賣買ノ禁令	四百九十四丁
●民林取締規則	四百九十五丁

●國土保安林ニ於テ竹木伐採礦物採掘等ハ許可ヲ得ヘキ旨	四百九十九丁
●堤防取締規則	五百四十七丁
●河川流水取締規則	五百四十九丁
●疏水運河通船取締規則	全
●堤堰使用規則	丁
●田圃蟲害豫防規則	五百五十二丁
●水面埋立並使用規則	五百五十四丁
●土木起工規則	五百五十七丁
●河川中竹木ヲ以テ垣籬ヲ設ケ漁業禁止	五百五十九丁
●燕捕獲方禁止	五百六十二丁
	五百六十三丁

附法規提要

目次

● 集會及政社法	一	丁
● 出版法	八	丁
● 版權法	十五	丁
● 新聞紙條例	二十二	丁
● 商標條例	二十九	丁
● 特許條例	三十四	丁
● 意匠條例	四十二	丁
● 脚本樂譜條例	四十六	丁
● 銃砲取締規則	四十七	丁
● 銃砲取締規則違反者處分ノ件	五十	丁
● 火藥取締規則	五十一	丁
● 遺失物取扱規則	五十七	丁
● 遺失物ニ係ル沒官ノ物品取扱方	五十九	丁

- 船隻信號器及救命具取締規則.....六十丁
- 内國難破船及漂流物取扱規則.....六十五丁
- 鐵道客則.....七十五丁
- 爆發物取締罰則.....八十三丁
- 保安條例.....八十五丁
- 豫戒令.....八十七丁
- 郵便條例.....九十丁
- 小包郵便法.....九十七丁
- 小包郵便法施行細則.....九十九丁
- 電信條例.....百一十一丁
- 徵兵令改正.....百一十六丁
- 徵兵事務條例.....百三十二丁
- 雜之部.....
- 通貨及証券模造取締法.....百四十八丁
- 違警罪即決例.....全丁
- 陸軍々人軍屬違警罪處分例.....百五十丁

- 海軍々人軍屬違警罪處分例.....百五十二丁
- 行旅死亡人取扱規則.....百五十三丁
- 盲僧取締方.....百五十四丁
- 一枚摺摺曆出版方.....全丁
- 六十六部禁令.....百五十五丁
- 牛馬牽繩三尺ニ限ル旨達.....百五十六丁
- 飲食物ノ中毒及藥物ノ誤用等ニヨリ死亡シタル者有之時届出方達.....全丁
- 飲食物ニ覆蓋ヲ設クヘキ旨達.....百五十七丁
- 糞尿船取締方達.....全丁
- 梓巫取締方達.....百五十八丁
- 菊御紋禁止ノ事.....百五十九丁
- 諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ苦旨達.....全丁
- 警察ニ關スル諸願届伺出方達.....百六十丁
- 人民私設ヲ以テ架設シ橋梁渡津開墾ノ道路等憲兵巡行ノ節實錢請求禁止方.....全丁
- 全上郵便脚夫ノ飛行遞送並ニ郵便物遞送集配人ヨリ實錢請求不相成事.....全丁
- 全上警部巡査制服着用ノ節及監獄看守押丁囚人腰送ノ節實錢請求方停止.....百六十一丁

- 全上近衛警備隊充員及后備軍召集令狀ハ持者及該令狀即達脚夫ヨリ實録請求禁止百六十一丁
- 水火災ニ際シ消防組員賃錢請求禁止……………全丁
- 飼犬取締方ノ事……………百六十二丁
- 戸籍ニ關スル事件及徵兵失跡者搜索方……………全丁

附法規提要目次畢

現行 違警罪規則類纂

横畑耕夫 校訂
村上彌太郎 編輯

○違警罪目

○甲第拾五號 明治十五年一月十八日
當縣違警罪別紙ノ通相定候條此旨布達候事

(別紙)

○違警罪

第一條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以

下ノ科料ニ處ス

一 無届ニテ外國人ヲ止宿セシメタル者

二 旅館屋賃屋敷賃ニ於テ住所氏名ヲ詐稱シ宿泊又ハ遊興シタル者

三 (廿八年五月縣令第二十三號ヲ以テ删除)

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾

錢以下ノ科料ニ處ス

○違警罪目

○違警罪目

四

五 宿屋渡船業者等ト馴合又ハ手数料等ヲ得ルノ目的ヲ以テ客引ヲ爲シタル者(廿一年
百四十二號
ヲ以テ追加)

第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 (十七年甲第六十四
號布告ニテ消滅)

二 (廿一年縣令第百五十
三號ヲ以テ削除)

第五條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 (全上)

二 (廿一年縣令第百五
號ヲ以テ削除)

三 電信線近傍ニテ紙鳶ヲ揚ケタル者

四 溝渠下水ハ流通ノ妨ケトナル土芥瓦礫等ヲ投棄シタル者

五 (十六年甲第十九號布告ヲ以テ追加シ
十七年甲第百五十一號布告ニテ消滅)

六 路上及店先等ニ於テ袒褻裸體シ又ハ腹部股股ヲ露シタル者(廿一年縣令第九十
八號ヲ以テ改正)

(參照) 刑法違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹

圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三 官許ヲ得ズシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七 官許ヲ得ズシテ死屍ヲ解剖シタル者

八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ地所ニ移シタル者

九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潛伏シタル者

十二 定ラタル住居ナク平常營生ノ產業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時
ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百廿六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹

○違警罪目

五

圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
 - 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
 - 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
 - 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
 - 五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者
 - 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ啖シ又ハ驚逸セシメタル者
 - 七 癡狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
 - 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
 - 九 墜死人ノ檢視ヲ受ケスレテ埋葬セタル者
 - 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
 - 十一 神詞佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
 - 十二 公然人ヲ罵詈訕弄シタル者但訴テ待テ其罪ヲ論ス
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 二 制止ヲ肯セズシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
 - 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
 - 四 木石等ヲ道路ニ推積シテ防圍ヲ設ケヌ又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
 - 五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
 - 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
 - 七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
 - 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
 - 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
 - 十 死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者
 - 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
 - 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
 - 十三 私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 十四 官許ヲ得ズシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 - 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
 - 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料

ニ處ス

- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サズシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五 官許ヲ得ズシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七 制止ヲ肯セズシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得ズシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害トナル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ推積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者
- 七 制止ヲ肯セズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クニ忽カセヨシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リコ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五 郵便ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
- 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入シタル者

○古物商取締法及同細則施行規則

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處罰ス

○古物商取締法及同細則施行規則

滋賀縣令第三十四號

古物商取締法及同細則施行規則左ノ通り之ヲ定ム

明治二十八年八月二十四日

滋賀縣知事大越 亨

古物商取締法及同細則施行規則

第一條 本則中取締法トハ古物商取締法細則トハ古物商取締法細則ヲ云ヒ警察官署トハ警察署警察分署ヲ云フ

第二條 取締法及ヒ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ取締法第十四條第十六條及細則第九條ヲ除クノ外總テ警察署警察分署長ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條 左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトキハ取締法細則及此規則ヲ遵守スヘシ
佛師 佛具商 鐫物師 蝙蝠傘商 靴商 鍛冶職 悉皆屋

第四條 營業ノ免許ヲ得ントスル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 營業物品ノ種類
二 族籍住所氏名年齢

三 前住地及現住地ニ移轉シタル年月日 四 族籍氏名ヲ變更シタルモノハ舊族籍氏名

第五條 營業者ノ退隱又ハ死亡等ニ因リ其營業ヲ繼承セントスルトキハ前營業者トノ關係

第六條 細則第九條ニ規定シタル市場ニ關スル届出ハ警察分署ヲ經由スヘシ
第七條 免許ヲ受ケタル警察官署ノ所轄以外ノ地ニ營業所又ハ店舗ヲ設ケルトキハ其地ノ

警察官署ニ届出スヘシ
第八條 營業所又ハ店舗ニ管理人ヲ置クノ届書ニハ其管理人ニ付本則第四條第二乃至第四

ノ事項ヲ記載スヘシ
第九條 營業所又ハ店舗ノ移轉地警察官署ノ所轄ヲ異ニスルトキハ兩所轄ノ警察官署ニ届

出ツヘシ
第十條 取締法第四條第二項ノ物品目錄ニハ其種類品質形狀模樣特徵員數代價賣主讓主ノ

住所氏名年月日ヲ記載スヘシ
第十一條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ住所氏名詳ナラサレ者ニ賣渡讓渡又ハ交換スル

コトヲ得ス
但住所氏名詳カナルモノ其証人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受タルトキハ此限ニアラ

○古物商取締法及同細則施行規則

○古物商取締法及同細則施行規則

ス

第十二條 營業帳簿ハ警察官署ノ檢印ヲ受シヘシ其紙數ヲ増減シタルトキ亦同ノ帳簿ハ毎年之ヲ改ム可シ

第十三條 營業者ハ物品賣買明細帳物品預帳ヲ製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

物品賣買明細帳

買受ノ部

買受讓受又ハ交換ニ因テ得タル物品ノ種類品質形狀模樣特徵員數番號賣主又ハ讓主ノ住所氏名代價供與シタル交換物ノ番號年月日取締法第七條但書ノ場合ニ於テハ其事由自用ノ物品ヲ賣品ニ供スルトキハ其種類品質形狀模樣特徵員數番號年月日及其事由物品ノ幾部ニ手入レテ爲シタルトキハ其事由

賣渡ノ部

賣渡シタル物品ノ代價若シハ取得シタル交換物ノ番號年月日買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ其住所氏名
刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ニ付テハ前項ノ外買主讓受主ノ住所氏名年齢賣品ヲ自用ニ供シ若シハ無償ニテ讓與シタルトキハ年月日及其事由

物品預帳

寄藏物品ノ種類品質形狀模樣特徵員數番號所有主ノ住所氏名年月日買受讓受又ハ交換ノ若シハ物品ヲ返還シタルトキハ其事由

第十四條 寄藏物品ヲ買受讓受又ハ交換シタルトキハ物品賣買明細帳ニ轉載スヘシ

第十五條 行商又ハ露店ヲ出スモノハ手控帳ヲ携帶シ行商中又ハ露店ニ於ケル物品ノ賣買

交換ヲ記載シ置キ三日以内ニ物品賣買明細帳ニ記載スヘシ

第十六條 物品ニハ賣買明細帳又ハ預帳ト同一ノ番號ヲ附スヘシ

第十七條 市場ニ於テハ營業者ノ紹介ナクシテ非營業者ヨリ直ニ賣品ノ供托ヲ受クルコトヲ得ス

營業者ハ住所氏名詳ナラサル非營業者ノ物品ヲ市場ニ紹介スルコトヲ得ス

但住所氏名詳カナル者其証人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受クルトキハ此限コアラヌ

第十八條 市場ニハ物品賣揚帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

賣揚物品ノ種類品質形狀員數代價賣主買主ノ氏名年月日

非營業者ノ供托物ニ係ルトキハ前項ノ外物品ノ模樣特徵賣主ノ住所氏名及紹介人ノ氏名

第十九條 取締法第十二條ニ依リ營業帳簿廢棄ノ許可ヲ得ントスルトキハ警察官署ニ願出

スヘシ

第二十條 物品預帳物品賣揚帳ヲ廢棄セントスルトキハ警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

○古物商取締法及同細則施行規則

○古物商取締法及同細則施行規則

- 第二十一條 品觸寫書ハ編冊ヲ設ケ編綴保存スヘシ
- 第二十二條 六個月以内ニ品觸寫書ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ其事實ヲ疏明シ警察官署ニ届出スヘシ
- 第二十三條 行商又ハ露店鑑札ノ下付ヲ請フハントスル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 營業物品ノ種類
 - 二 家族又ハ同居ノ雇人ヲ行商又ハ露店ヲ出サシメントスルハ其族籍住所氏名年齢
- 第二十四條 行商又ハ露店鑑札ヲ毀損若シハ亡失シ及其記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
- 行商又ハ露店ヲ廢止シ若シハ死亡シタルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ
- 但死亡者營業主ナレトキハ細則第四條第二項ニ從フヘシ
- 第二十五條 露店鑑札ハ之ヲ店頭ニ表出スヘシ
- 第二十六條 營業所又ハ店舗ニハ其業名ヲ記シタル看板ヲ掲クヘシ
- 市場ニハ開市ノ月日開閉ノ時間ヲ記シタル看板ヲ掲クヘシ
- 第二十七條 取締法第四條第二項細則第四條第七條第十一條及ヒ本則第七條第八條第二項第九條第二十二條ノ届書又ハ行商若シハ露店鑑札ノ返納ハ便宜巡查駐在所ニ差出スコトヲ得

- 第二十八條 本則第七條第八條第二項第九條第十一條第十二條第一項第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則
- 第二十九條 從來免許ヲ得タル營業者ハ更ニ出願ノ手續ヲ要セス免許ノ効チ有セシム
- 從前下付シタル行商札ニ付テモ亦同シ
- 但同居ノ雇人ニ付テモ亦同シ
- 第三十條 從來ノ營業帳簿ハ明治廿八年九月十五日迄ニ返納スヘシ
- 第三十一條 市場取締規則ニ依リ從來免許ヲ得タル古物ノ市場ハ明治廿八年九月三十日迄ニ更ニ認可ヲ請フヘシ
- 第一號 物品賣買明細帳

明治何年何月起	
物品賣買明細帳	
何郡何町大字何第何番屋敷	
古物種類	某
商何	

用紙適
宜堅二
ツ折

(二個以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケルモノハ何某營業所又ハ店舗ト記載スヘシ第二號第四號格式亦同シ)

○古物商取締法及同細則施行規則

買受ノ部

何年何月何日

第何號

一 黒羽二重紋付男綿入 壹枚

但 菊水等所紋裏花色秋父

第何號

一 納戸色緞女紋付帷子 壹枚

但 五七ノ桐三ツ所紋秋草

裾襖襟裏何々

此代金何圓何十錢

何郡何町大字何、何某ヨリ買受

同月何日

第何號

一 古銅双鶴香爐 壹個

但 無銘明代ノ作雄鶴ノ左

足ニ環アリ

何郡何村大字何、何某ヨリ子

第何號ト交換

賣渡ノ部

何年何月何日

代金何圓何拾錢

何郡何村大字何、何某へ賣渡

何月何日

何郡何村大字何、何某へ第何

號ト交換

何月何日
自用ニ供ス

同月何日

第何號

一 某法學博士

一行政學汎論

但 二冊本明治何年何月出

版表紙ニ何某藏書ノ印アリ

此代金何十錢

住所氏名詳ナラサル何府何市

何町大字何、何某ヨリ何郡何

村大字何、何某ヲ証人トシテ

買受

何年何月何日

第何號

一 貞宗刀

但 長何尺何寸何分在銘縁

頭目貫鐔切羽鋼柄鞘何々

此代金何圓何十錢

何郡何町大字何、何某ヨリ買受

(一回住所氏名ヲ詳記シタルトキハ
以後ハ單ニ其氏名ノミニ止ムルモ
妨ケナシ第二第三號様式亦同シ)

何月何日

代金何十錢

住所氏名詳ナラサル年齢二十

歳位書生体ノ男へ賣渡

何年何月何日

代金何圓何十錢

何郡何村大字何第何番屋敷何

某當何十何歳へ賣渡

第二號 物品賣主帳

明治何年何月起

物品賣場帳

何郡何町大字何第何番屋敷
市場主 何 某

折ッ二横宜適紙用

明治何年何月何日
何某出

一結城纏綿男單衣
此代金何十錢

一枚 何某

何某出
一古銅大花瓶

此代金何圓何十錢

一個 何某

何月何日
何郡何村大字何第何番屋敷何某出

何某紹介

一宣徳火鉢
但七賢人、浮模標桑台付
此代金何圓

一對 何某

同
一何々

但云々

何個 何某

第二號 物品預帳

明治何年何月起

物品預帳

何郡何町大字何第何番屋敷
何某出
古物銅鐵書畫商 何 某
書籍 潰金銀

折ッ二横

何年何月何日

第何號

何郡何町大字何

一平形銀版

一個

何 某

但目方何十何分柄ハ象牙ヲ以テ接合シ取外
ニ便ス箱ハ縞桐ニテ蓋ノ裏ニ何々ノ銘アリ

何年何月何日買受

同年何月何日

第何號

何郡何町大字何

一堆朱書棚

一個

何 某

但云々

何年何月何日返還

第四號 品類廣告標牌

明治何年何月起

品類廣告標牌

何郡何町大字何第何番屋敷

古物何々商 何 某

第五號 營業所又、店舖看板

何郡何町村第何番屋敷

器具 看報

古物 賣賣 賣賣 商

何々 何々

何 某

豎一尺五寸以上 幅六寸以上
木質適宜

第六號 市場看板

每一六日 午前第何時ヨリ
午後第何時マデ

古物市場

何郡何町大字第何番屋敷

市場主 何 某

豎二尺以上
幅八寸以上
木質適宜

(参照)

内務省令第八號

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

明治二十八年七月二十六日

内務大臣 子爵野村 靖

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
警視總監北海道廳長官、府縣東京府ヲ除ク知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島司地以下之ニ倣フ

○古物商取締法及同細則施行規則

役人若シハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若シハ停止ヲ解クノ處分ハ此限リニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

吳服商 金物商 袋物商 小間物商 籠甲商 時計商 飾商 書籍商
其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メシル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ代理人ヲ定メ其他行政廳ニ届出スヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ
但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ届出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ証明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受

ル者若シハ雖受タル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出スヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ届出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同店ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サズ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ
鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ
規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

○古物商取締法及同細則施行規則

○古物商取締法及同細則施行規則

二十四

第十一條 古物ノ雜賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取
譲受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交
換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條及第十三條ニ
違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令
ヲ發スルコトヲ得

(參照)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十八年三月二日

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文
內務大臣子爵 野村 靖

○法律第十三號

古物商取締法

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若シハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタル
モノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ
届出シヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキ
ハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルニ非スレバ賣買若シハ交換シタルトキハ古
物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若シハ譲受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届
出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及賣業者ヨリ買受ケタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及雜賣

二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物商物品ヲ買受ケ若シハ交換セムトスルトキハ賣主讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處
分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若シ不正品ノ疑アルトキハ直ニ警

○古物商取締法及同細則施行規則

二十五

警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所氏名ノ詳ナル者其隣人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サルハ之ヲ買受ケ又ハ譲受シルコトヲ得ス

前項ノ物品コレヲ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別ヲ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六ヶ月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若シハ寄藏ヲ受ケ苦シハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若シハ交換シタルトキハ其ノ物品ノ賣主讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主讓受主ヲ詳コスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受シ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若シハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時ヲリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若シハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時ヲリトモ營業禁止ヲ解シコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品コレヲ遺失物若シハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルトキハ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知ラサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者コレヲ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルニ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クシテ諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○質屋取締法及同細則施行規則

二十八

- 一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者
- 二 第二條ノ免許ヲ受ケヌニテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第十五條ニ違反シタル者

第二十條 第三條第四條第六條第七條第八條第十條第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ罰金以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此法律ヲ犯シタル者ニハ列法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○質屋取締法及同細則施行規則

滋賀縣令第三十五號

質屋取締法及全細則施行規則左ノ運之ヲ定ム

明治二十八年八月二十四日

滋賀縣知事大越 亨

質屋取締法及同細則施行規則

第一條 本則中取締法トハ質屋取締法細則トハ質屋取締法細則ヲ云ヒ警察官署トハ警察署警察分署ヲ云フ

第二條 取締法及細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ取締法第十八條第二十一條ヲ除クノ外總テ警察署長警察分署長ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條 營業ノ免許ヲ得ントスル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 族籍住所氏名年齢
- 二 前住地及現住地ニ移轉シタル年月日
- 三 族籍氏名ヲ變更シタルモノハ舊族籍氏名

四 營業者ノ退隱又ハ死亡等ニ因リ其營業ヲ繼承セントスルトキハ前營業者トノ關係

第四條 免許ヲ受ケタル警察官署ノ所轄以外ノ地ニ支店ヲ設ケントスルトキハ其地ノ警察官署ニ願出スヘシ

第五條 支店ニ管理人ヲ置クノ願書ニハ其管理人ニ付本則第三條第一乃至第三ノ事項ヲ記載スヘシ

第六條 店舖ノ移轉地警察官署ノ所轄ヲ異ニスルトキハ兩所轄ノ警察官署ニ願出ツヘシ

○質屋取締法及同細則施行規則

二十九

○質屋取締法及同細則施行規則

第七條 營業主死亡シ相續人未定ノ間ハ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第八條 取締法第六條ノ事項ヲ定メ警察官署ニ届出スヘシ其事項ヲ變更シタルトキ亦同ノ取締法第六條ノ事項ハ質札及通帳ニモ之ヲ記載スヘシ

第九條 營業帳簿ハ警察官署ノ捺印ヲ受クヘシ其紙數ヲ増減シタルトキ亦同ノ帳簿ハ毎年之ヲ改ムヘシ

第十條 營業者ハ質物臺帳流質物賣拂帳ヲ製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
質物臺帳

質物ノ種類品質形狀摸樣特徵員數番號貸金額質置主質使人ノ住所氏名質入受戻入換流質ノ年月日利子ノ割合取締法第四條但書ノ場合ニ於テハ其事由

轉質ニ供シタルトキハ質取主ノ住所氏名年月日及其事由之ヲ受戻シタルトキハ年月日及其事由

流質物賣拂帳

賣却シ流質物ノ種類品質形狀摸樣特徵員數番號代價買主ノ住所氏名年月日

流質物ヲ自用ニ供スルトキハ其種類品質形狀摸樣特徵員數番號年月日及其事由

第十一條 質物ニハ質物臺帳ト同一ノ番號ヲ附スヘシ

第十二條 營業帳簿廢止ノ許可ヲ得ントスルハ警察官署ニ届出スヘシ

第十三條 品觸寫書ハ編冊ヲ設ケ編綴保存スヘシ

第十四條 六箇月以内ニ品觸寫書ヲ亡失シタルハ五日以内ニ事由ヲ説明シ警察官署ニ届出スヘシ

第十五條 質物ハ抵當ニ供スルコトヲ得ス

轉質ニ取リタル物品ハ更ニ他ニ質入スル事ヲ得ス

第十六條 古物商ノ免許ヲ得ルシテ流質物ヲ市場ニ販賣シ又ハ店頭ニ陳列シ若シハ廣告シテ購買者ヲ募リ或ハ行商若クハ羅賣スルコトヲ得ス(廿八年十月本縣令第三十號ヲ以テ本條中改正)

第十七條 店舗ニハ其業名ヲ記シテ看取ヲ掲クヘシ

第十八條 取締法第一條第二項細則第三條第六條及本則第五條第二項第六條第八條第一項

第十四條ノ届書ハ便宜巡查駐在所ニ差出スルコトヲ得

第十九條 本則第五條第一項第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條

第十五條第十七條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹

圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス(廿八年十月本縣令第三十號ヲ以テ第十六條削除)

附 則

第二十條 從來免許ヲ得タル營業者ハ更ニ出願ノ手續ヲ要セス免許ノ効チ有セシム

第二十一條 從來ノ營業帳簿ハ明治廿八年十二月三十一日マテ繼續使用スルコトヲ得

○質屋取締法及同細則施行規則

明治何年何月何日
 子第何號
 一何々々
 但云々
 同第何號
 一何々々
 但云々
 同
 壹枚
 此代金何圓何拾錢
 何郡何町大字何古物商何某へ賣却
 (一) 此等ニ代價ヲ分テスルコト
 (ハ) 一カ之ヲ記載スルコト

第三號 品類實書編冊

明治何年何月起
 品類實書編冊
 何郡何町大字何第何番屋敷
 何
 某

半紙 厚紙 表紙

表

<p>一云々</p> <p>一云々 (紙子取締法第六條ノ 事項ヲ記載スヘシ)</p>	<p>定</p>
<p>一云々</p> <p>一云々 (紙子取締法第六條ノ 事項ヲ記載スヘシ)</p>	<p>何郡何町大字何第何番屋敷</p> <p>質屋 何 某印</p> <p>支店ニ在テハ何郡何町(村)大字何 第何番屋敷何某支店管理人何某ト 記載スヘシ第六號様式亦同シ</p> <p>(必要ノ事項ヲ記載ス)</p>

第六號様式

<p>○</p> <p>質物之通</p>	<p>何郡何町大字何第何番屋敷</p> <p>質屋 何 某印</p>
<p>一云々</p> <p>一云々 (取締法第六條ノ 事項ヲ記載スヘシ)</p>	<p>定</p>
<p>何 某 殿</p>	<p>上 同</p>

何年何月何日		
第何號		
一金何圓何拾錢	大納言	一枚
	表附取葉博多男	一筋
	八二五	
同年何月何日出賃		
同月何日		
第何號		
一金何拾錢	何々	何個
同月何日入換		
一金、〃、〃、〃		

(參照)
內務省令第九號

明治廿八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

明治廿八年七月廿六日 內務大臣、子爵野村 晴
質屋取締法細則

第一條 質屋取締法及ヒ此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ警視總監、北海道廳長官、府縣以下之ニ依リ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任ス。コトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設ケルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ後籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ノ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ
但死亡者非戸主トシテハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ後見人ニ因リテ營業ヲ免許シ願出又ハ後見人ノ變更ヲ願出ルニハ其後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付ス

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ニ事實ノ生ラレ日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出シ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シクハ五日以内ニ其事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ個所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額質物ノ種類、員數、番號年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

(參照)

朕帝國議會協贊ヲ經テ質屋取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治廿八年三月十日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
內務大臣 子爵野村 靖

○法律第十四號

質屋取締法

第一條 屋營業ヲ爲サントスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設ケルトキ亦同シ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所氏名ノ詳カナラザル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但住所氏名ノ詳カナラザル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第六條 質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サン

ノ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若シハ貸付スルコトヲ得ス

轉賣ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若シハ禁止スルコトヲ得ス

第九條 質屋ハ左ニ掲クニ制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金概拾五錢以下ハ一箇月一錢一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、拾圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無効トス

第十條 質屋主ハ流質期限前ハ何ヲリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質經過ノ後何時ヲリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贖物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發シルコトヲ得

第十四條 贖物ノ品觸アリトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六個月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出シ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時ヲリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ニ限リ其質品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物コレヲ遺失物若ハ贖物ニ係ルトキハ警察官之ニ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知シサルトキハ徵收シタル日ヨリ二個年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セルトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受シヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ヌ停止ノ處分ヲ受ケタル者ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若シハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時ヲリトモ營業ノ禁止ヲ解シコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クニ諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○屑物商取締規則

- 一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者
- 二 第一條ノ免許ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者
- 第廿三條 第一條第二項第二條第三條第四條第五條第一項及第二項第六條第七條第一項第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第廿四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
- 第廿五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
- 第廿六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○屑物商取締規則

○甲第廿號 明治十七年二月十五日
 屑物商取締規則別紙ノ通リ相定來ル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從來營業スル者ハ本文施行期日マテニ願出免許ヲ受クヘシ

(別紙)

屑物商取締規則

- 第一條 屑物商トハ紙屑硝子襪襦等ノ屑物ヲ賣買スル營業ヲ云フ
- 第二條 屑物商營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受ケ行商者ハ行商鑑札ヲ受クヘシ廢業改氏名代替轉居等ノ節ハ速ニ其旨届出ツヘシ
(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ警察署ノ下又ハ分署)ノ四字挿入)
- 第三條 行商者行商鑑札ヲ毀失シ若シハ改氏名代替轉居若シハ家族雇人等ノ行商者ト交換シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ廢業ノ節ハ鑑札返納スヘシ
- 但他ノ警察署所轄内ヘ轉居スルトキハ鑑札返納シ更ニ轉住地所轄警察署又ハ分署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ(全上)
- 第四條 行商鑑札ハ賣買又ハ貸借スルコトヲ得ス
- 第五條 屑物居商ハ其業名ヲ配シテ看板ヲ調製シ店頭ニ掲シヘシ
- 第六條 屑物行商者行商ニ出ルトキハ目籠ノ外風呂敷囊等ノ類ヲ用フルコトヲ得ス鑑札ハ必

○屑物商取締規則

目録ノ外面ニ付ケ置クヘシ

第七條 屑物商ハ右衣古金其他營業外ノ物品ヲ賣買スルハ勿論自宅又ハ賣主買主ノ家宅外ニ於テ物品ヲ賣買スルコトヲ得ス

第八條 買取スル物品ノ内ニ金銀其他賣主ノ紛失セシモノト思料スルモノアルトキハ速ニ賣主ニ還付スヘシ賣主詳カラサレトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出指揮ヲ受ク可シ

第九條 不正品ト思料スル物品ヲ賣却セントスル者アルトキハ賣主ニ差響カサル様速ニ所轄警察署又ハ分署巡査駐在所若シハ巡行ノ巡査ニ報告スヘシ(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ分署ノ下交番所ヲ巡査駐在所ト改正)

第十條 警察官吏ハ何時アリトモ屑物商ノ家宅ニ臨ミ又ハ行商先ニ於テ商品ヲ検査シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押スルコトアルヘシ屑物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 此規則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿七條ノ刑ニ處ス(廿二年縣令第七十號ニテ改正)

第十二條 前條ノ處分ニ付セラレタル者其他不正ノ所業アル者ハ其事情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十三條 (全上)
第一號 營業願書式

屑物商營業願書

私儀今般屑物商營業致度候ニ付御免許被成下度奉願候也

何郡何町何番地身分何商

年號月日

氏 名 印

年 齡

滋賀縣

何警察署又ハ何分署

御 中

(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ又ハ何分署ノ五字ヲ加ヘ戶長印例ヲ删除以下本願書式中亦同シ)

行商鑑札ヲ受ケントスルモノハ本文中ニ(御免許ノ上ハ行商鑑札御下付被成下度)ノ數字ヲ加ヘ若シ家族雇人等ヲシテ行商セシムルモノハ其本籍住所身分年齢ヲ別紙ニ記載シ之ヲ添付シ尙ホ本文中ニ(別紙人名)ノ數字ヲ加フヘシ

第二號 行商鑑札書換願書式

行商鑑札御書換願

私父又ハ

右之者へ第何號房物行商鑑札御下付相成居候段今般死亡又ハ致私跡相續致候ニ付鑑札御書換被成下度此段奉願候也

何郡何村何番地身分何商

氏名
年
齡

年號月日

滋賀縣

何警察署又ハ何分署

御中

改氏名稱居又ハ雇人ノ交換等ニ依リ書換再渡ヲ請フモ亦此書式ニ準據スヘシ

第三號 廢業届書式

廢業御届

私儀是迄房物商御免許相成居候處今般都合ニ依リ廢業致候ニ付此段御届仕候也
何郡何村何番地身分

年號月日

氏名

滋賀縣

何警察署又ハ何分署

御中

行商鑑札ヲ受ケ居ルモノハ本文中(行商鑑札綴枚返上)ノ數字ヲ加ヘ營業禁止ニ付鑑札返納スヘシトモ亦此書式ニ準據スヘシ

第四號 看板離形

堅固尺二尺五寸厚サ并ニ木質適宜
横全八寸

何郡何村何番地

□ 房物商 氏名

○印判師取締規則

○甲第六十六號 明治十七年六月十二日

印判師取締規則別冊ノ通相定來ル八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

(別冊)

印判師取締規則

- 第一條 印判師トハ各種ノ印章ヲ彫刻又ハ鑄造シ若シハ仕入印判ヲ販賣スル營業者ヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ(廿二年廿九號ヲ以テ者ハノ下(局長ノ異印ヲ受ケタル書面ヲ以テ)十五字删除シ警察署ノ下(又ハ分署)ノ四字ヲ挿入)
- 第三條 廢業又ハ政氏名轉居等ノ節ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ若シ轉居地他ノ警察署所轄ニ係ルトキハ別ニ其警察署ヘ願出ヘシ(全職ヲ以テハノ下(前條全條ノ手續ヲ以テ)ノ十字ヲ删除シ(又ハ分署)ノ四字ヲ挿入)
- 第四條 職工ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ其族籍氏名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其都度所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ(全職ヲ以テ(又ハ分署)ノ四字ヲ挿入)
- 第五條 營業者ハ左ノ雛形ニ依リ看板ヲ調製シ店頭ヘ掲出スヘシ

年號 月 日 免許

堅曲尺二尺五寸

横 全 八 寸

厚サ並ニ木質適宜

印判師營業	住所	氏名
-------	----	----

單ニ印判販賣營業者ノ分ハ印判販賣營業ト記スヘシ

第六條 營業者ハ印鑑明細帳ヲ調製シ其紙數ヲ記シ警察署直轄内ハ其警察署分署所轄内ハ其分署ノ換印ヲ受クヘシ

但紙數ヲ増加セシムルキ亦同シ

第七條 前條帳簿ニハ彫刻鑄造又ハ販賣スル印章ヲ押捺シ其注文主又ハ買取主ノ住所氏名年月日及ヒ印材ノ形質並ニ證人ヲ要シタルトキハ其住所氏名等ヲ詳記スヘシ

但官廳及ヒ學校、病院、社寺、會社等ノ印章ハ掛役員ノ氏名ヲ記載スヘシ

第八條 身元詳ナラザル者ノ注文ヲ受ケ彫刻鑄造シ又ハ仕入印章等ヲ賣渡スヘシ得ス

但身元詳ナル者証人ヲシテ此限ニマラス

第九條 印章又ハ印影ヲ持參シ寸法字畫等同一ノ印章ヲ彫刻又ハ鑄造シ注文スル者アルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ

第十條 注文主又ハ買取主ノ舉動不審ト認メタルトキハ其者ヘ差響カサル機速ニ所轄警察署及ヒ分署巡査駐在所若シハ巡行警察官ヘ密告スヘシ(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ分署ノ下(又番所トアルトキ巡査駐在所ト改ム)

第十一條 印鑑明細帳ハ十年間保存スヘシ若シ其期限内亡失シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ

第十二條 警察官ハ何時タリトモ營業者ノ家宅ニ臨ミ印章帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其印章若シハ帳簿ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ檢査スルコトアルヘシ營業者之ヲ拒ム

イサ得ス

第十三條 第二條乃至第十一條ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿七條ノ刑ニ處ス(廿年縣令第七十號改正)

第十四條 前條違警罪ノ處分ニ付シタルモノ又ハ官私印ヲ偽造スル等自己營業上ニ關シテ刑法ノ處分ヲ受ケタルモノハ其狀情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアリヘシ

第十五條 (全上刪除)

○湯屋取締規則

○甲第六十四號 明治十七年六月十二日

湯屋取締規則別紙ノ通相定來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但本縣違警罪目第四條第一項ハ本則施行ノ日ヨリ消滅ノ儀ト可心得事
(別紙)

湯屋營業取締規則

第一條 浴湯及ヒ藥湯等ノ營業ヲ爲サントスル者ハ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ添ヘノ下ハ月長ノ奥印ヲ受ケタ
ル書面ヲ以テ)ノ十五字ヲ刪リ(又ハ分署)ノ四字ヲ挿入)
但藥湯營業者其藥劑ニ付テハ賣藥規則ニ依リ別ニ免許ヲ受クルハ勿論タルヘシ

第二條 前條免許ヲ受ケタル者ハ本則第四條第五條第六條ノ旨ニ遵ヒ浴場其他成ルヘシ堅牢ニ構造シ關業前所轄警察署又ハ分署ヘ願出検査ヲ受クヘシ其構造不完全ト見認ルトキハ其開業ヲ許サズヘシ

但浴場其他改造シタルトキモ本文全欄届出検査ヲ受クヘシ
第三條 雇業代替又ハ改氏名等ノ節ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ツヘシ(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ改正スルニ條ト同)

第四條 火焚場及ヒ烟筒ハ石煉化又ハ塗屋金屬等ノ不燃質ノ物ヲ以テ構造シ破損シタルトキハ速ニ修繕スヘシ
但火焚場烟筒等ハ毎月一回以上必ス掃除スヘシ

第五條 浴場及ヒ衣室等ハ必ス男女ノ區域ヲ設ケ混同スルコトヲ禁ス
但男女入浴ノ日ヲ異ニスルモノハ此限ニアラス

第六條 浴場及ヒ衣室ハ外面ヨリ見ヘサル櫛簾其他ノモノヲ以テ必ス見隠シヲ爲シ且ツ門口ヲ明ク放シ置クヘカラス
第七條 夜間ハ午後第十二時限リ入浴ヲ止メ火焚場等注意シ嚴ニ火災ヲ豫防スヘシ
但烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラヌ停業スヘシ

第八條 浴客ノ衣類其他所持品ハ紛失セザル様注意保護スヘシ

○劇場寄席取締規則

五十六

第九條 浴客ノ遺留品若シハ換易ニ置キタル物品アリテ五日以内ニ持主知レサルトキハ該品ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ其旨届出ツヘシ

第十條 警察官吏ハ時々營業者ノ家宅ニ臨ミ浴場火焚場等ヲ視察シ若シ修繕掃除等ヲ怠ルトキハ營業ヲ停止シ修繕又ハ掃除ヲ命スルヲアルヘシ

第十一條 第一條乃至第七條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十七條ノ刑ニ處シ尙其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヲアルヘシ(廿年縣令第七十號ニテ改正)

第十二條 (全上刪除)

○劇場寄席取締規則

○縣令第五十六號 明治二十二年四月九日

劇場寄席取締規則左ノ通相定ム

劇場寄席取締規則

第一條 劇場寄席ヲ建設又ハ改造セントスルトキハ町村長ノ奥印ヲ受ケテ書面借地ナレハ地主ノ連署ニ圖面並ニ設計ノ方法書及ヒ四隣五十間寄席ハ三十間以内地主並ニ家主ノ承諾書改道ニ係ルトキハ承諾書ヲ要スヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由テ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ工事落成ノ上ハ更ニ警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

第二條 劇場廢席又ハ賣買讓渡スルトキハ前條ノ手續ニ準テ縣廳ヘ届出ヘシ

但賣買讓渡ハ双方連署スヘシ

第三條 劇場寄席ノ構造ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 通常出入口ノ外ニケ所以上ノ非常口ヲ設ケ扉ハ外開ニ爲スヘシ
- 二 床面積十分一以上ノ面積ヲ有ツ窓開ヲ設クヘシ
但窓障子ノ骨等ハ算外トス
- 三 空氣ノ容積八十七立方尺毎ニ一寸角ノ割合ヲ以テ天井或ハ其傍ニ通風口ヲ設クヘシ
- 四 二階樓數ハ堅牢ニ構造シ通常ノ外劇場ハ二ケ所以上寄席ハ一ケ所以上ノ非常梯子ヲ設クヘシ
- 五 奈落舞臺下ヲ設クモモノハ其構造ハ石煉瓦又ハ漆喰叩ヲ用フヘシ
- 六 便所ハ臭氣ノ密閉ニ及ハサル所ニ設ケ便器ハ漆喰叩又ハ陶器素燒ト稱フ者ハ除クヲ用ヒ其上面周圍ハ叩キ漆喰又ハ「セメント」ノ類ヲ以テ滲透ヲ防クヘシ
- 七 全場見通ニ便ナル場所ヘ警察官ノ監視席ヲ設クヘシ
- 八 前各項ノ外家屋建築規則施行區域内ニ於テハ該規則ニ從フヘシ

第四條 劇場及寄席ニハ防火器ヲ備フヘシ

第五條 寄席ノ興行ハ軍談講釋輕口斷淨瑠璃祭文浮レ節歌舞音曲手品物眞似手踊影繪操人形俄身振等ノ類トス

○劇場寄席取締規則

五十七

但寄席ニ於テハ演劇ヲ興行スルコトヲ得ヌ

第六條 演劇其他ノ興行ヲ爲サントスルハ日時場所木戸錢場代席料等ノ定額ヲ^{無料興行ハ其旨ヲ詳}記シテ書面ニ演劇ノ脚本所作ノ要領ヲ具シテ書面及ヒ遊人ノ鑑札^{鑑札ヲキヨクハ其住所氏名ヲ記載シタル書面}ヲ添ヘ座主又ハ席主連署シ町村長ノ與印ヲ受テ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ若シ興行中臨時遊人ヲ増シ日時ヲ伸ビ又ハ場所木戸錢場代席料等ヲ増減變更スルトキモ同様願出遊題ヲ變換シ遊人ヲ減シ日時ヲ縮メントスルトキハ届出ヘシ

但普通在來ノ演藝所作事ハ遊題ノヨリ記載シ脚本又ハ趣意ノ要領書ヲ差出スコト及ハヌ

第七條 寄席ハ一坪ニ付十人^{十二歳未満ノ者ハ二人ヲ一人ニ算シ三歳未満ハ員外トス}以下ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定メ場

内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條 凡興行ハ左ノ諸項ヲ禁ス

- 一 歷朝ノ皇德ヲ瀆シ又ハ正邪ヲ紊リ或ハ淫褻俗ヲ壞ルノ言行ニ涉ルコト
- 一 客席ニ遊人ヲ又ハ樂屋ニ看客ヲ往來セシムルコト
- 一 客席ヲ暗黒ニスルコト
- 二 無電ノ燈火ヲ用フルコト
- 但釣火差出等ハ此限ニマラス
- 一 火止ニテアラザル石油ノ點燈ヲ用フルコト

一 關シ賣リ其他種々ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促スコト

一 定員外ノ看客ヲ入ルコト

第九條 免許遊ハニ非サレモノ、演藝ハ木戸錢場代席料及ヒ下足料等ヲ收受スルコトヲ得

第十條 興行中便所ハ毎日掃除シ時々防臭藥ヲ撒布スヘシ

第十一條 木戸錢場代席料等ハ衆人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條 興行ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ

但非常烈風等ノ節ハ臨時停業ヲ命スルコトマシヘシ

第十三條 臨時小屋掛ヲ爲シ又ハ一時民屋等ヲ借用シ演劇其他ノ興行ヲ爲サントスルトキハ町村長ノ與印ヲ受テ書面ニ^{借地ナレハ地主借家ナ}ハ座主ノ連署ヲ要ス^{現住ノ承諾書ヲ添ヘ}所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十四條 大津町八幡町彦根町長濱町ニ於テハ臨時小屋掛又ハ一時民家ヲ借用シテ興行スルコトヲ許サヌ

但神佛祭典祝賀等ノ節奉納又ハ餘興トシテ舉行スルモノハ此限ニマラス

第十五條 臨時小屋掛又ハ一時民家ヲ借用スルモノハ此規則第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條ヲ遵守シ且其構造ハ成ルヘシ堅牢ニシテ空氣ノ疏通ヲ主トシ非常

○觀物場取締規則

出入ノ便ニ要スヘシ、若シ構造等看客ノ安全ヲ保ツニ充分ナラスト認ムルトキハ許可セズ

但臨時少屋掛ニ機敷ヲ設ケルモノ一坪ニ付八人ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定ムヘシ

第十六條 演藝ノ言行脚本又ハ所作事ノ趣意要領書ノ外ニ沙リ或ハ第八條第一項ニ觸ル、

カ若シハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十七條 此規則第一條第二條第六條第八條第二項第三項第四項第五項第六項第七項第九

條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十八條ノ刑ニ處

附 則

從來ノ劇場寄席ニシテ本則第三條ノ制限ニ觸ル、モノハ本年十月三十一日迄ニ改造スヘ

シ其制限ニ從ハサルモノハ同日以後ハ右劇場寄席ニ使用スルコトヲ得ズ

○觀物場取締規則

○縣令第五十七號 明治二十二年四月九日

觀物場取締規則左ノ通相定ム

觀物場取締規則

第一條 角力競馬曲馬能狂言足藝輕業擊劍力持獨樂廻シ猿芝居水火花其他鳥獸魚介天產物

人造物等ノ觀物興行ヲ爲サントスルトキハ其種類日時場所木戸錢場代席料等ノ定額無料ナ目ヲ詳記シタル書面當地ノ地主借家ノ主人ノ鑑札鑑札ナキモノハ其住所添ヘ町村長ノ奥印氏名ヲ記載シタル書面ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ若シ興行中臨時遊人ヲ増シ日時ヲ伸ハ

シ又ハ場所木戸錢場代席料等ヲ増減變更セントスルトキ亦同シ

但遊人ヲ減シ日時ヲ縮メタルトキハ其旨願出ヘシ

第二條 觀物場ハ空氣ノ疏通ヲ主トシ非常出入ノ便ヲ要シ機敷ヲ設ケルモノハ其構造ヲ堅

牢ニシテ一坪ニ付八人十二未満ノ者ハ二人一人以下ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定メ場内見易

キ場所ニ揭示スヘシ若シ其構造看客ノ安全ヲ保ツニ充分ナラスト認ムルトキハ許可セズ

第三條 競馬曲馬ノ興行ハ馬場ノ周圍ニ堅牢ナル柵ヲ設ケ檢査ヲ受クルコトヲサレハ興行

スルコトヲ得ズ

第四條 樽罍ナル酒獸等ヲ觀物トスルトキハ逃逸若シハ看客ノ危險ヲ防ク爲メ堅牢ナル柵

鐵又ハ柵欄ヲ設クヘシ

第五條 角力其他ノ興行ニシテ機敷ノ設ケアルモノハ全場見通ニ便ナル場所ニ警察官ノ監

臨席ヲ設クヘシ

第六條 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ毎日掃除シ時々防臭藥ヲ撒布スヘシ

第七條 木戸錢場代席料等ハ衆人ノ見認メ易キ場所ニ揭示スヘシ

○觀物場取締規則

○觀物場取締規則

第八條 觀物場ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

- 一 人造物ヲ天造物ト稱シ又ハ事實ニ相違スルコトヲ揚言シ容テ誘引スルコト
- 一 實物ニ相違セル看板ヲ掲ケルコト
- 一 醜體又ハ猥褻ニ涉ルコト
- 一 異機ノ人身及ヒ惡臭ヲ發スル腐敗物ヲ出スコト
- 一 圖ヲ賣リ其他種々ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促スコト
- 一 檢數ニ定員外ノ看客ヲ入ルコト

第九條 興行ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ

但非常烈風等ノ節ハ臨時停業ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 免許證人コマラサレモ、演藝ハ木戸錢場代席料及ヒ下足料等ヲ收受スルコトヲ得ス

第十一條 劇場又ハ寄席ニ於テ觀物興行ヲ爲サントスル者ハ總テ劇場寄席取締規則ヲ遵守スルヘシ

第十二條 觀物種類方法等ニ因リ健康ニ害アルカ又ハ危險ノ恐レアルトキ若クハ醜體猥褻ニ涉リ或ハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條 此規則第一條第三條第四條第七條第八條第一項第二項第四項第五項第六項第九條第十條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十八條ノ刑ニ處ス

○遊技場取締規則

○縣令第七十四號 明治廿二年五月廿四日

明治十四年二月甲第二百十八號布達諸遊技場取締規則左ノ通改正ス

但此規則ニ抵觸スル室内銃大局半弓ノ射場ハ本年十月三十日マテニ改造スヘシ其改造ヲ爲サレモノ同日以後使用スルコトヲ得ス

遊技場取締規則

第一條 賭遊技場(室内銃、玉獎、大弓、半弓、擲弓、吹矢、投)ヲ開設シ營業セントスル者ハ町村長ノ認可ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但室内銃大局半弓借馬ハ四隣家主ノ承諾書ニ射場又ハ馬場ノ構造仕様書ヲ添フヘシ且ツ其構造落成ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受クルコトヲサレハ使用ヲ許サス

第二條 免許ヲ受ケタル營業人ニシテ神祭法會等ノ場所ヘ一時出店セントスル者ハ前條同様ノ手續ニ依リ其地所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ尤モ其社寺境内ニ係ルモノハ該境内管理者ノ連署ヲ要スヘシ

第三條 改氏名代替轉居廢業等ノ節ハ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ届出其轉居先他ノ警察署

○遊技場取締規則

又ハ分署所轄内ニ係ルトキハ別ニ其地所轄警察署又ハ分署ヘモ届出ヘシ

但室内銃大弓半弓借馬場所移轉ハ更ニ第一條ノ手續ニ依リ願出ヘシ

第四條 遊技場ニ於テハ凡テ利益ヲ僥倖シ又ハ遊客ヲシテ賭博ニ願スル所業ヲ爲サシムヘカラス

第五條 猥褻ノ所業ハ勿論假令客ノ依頼ト雖モ宿泊飲酒等ヲ爲サシムヘカラス

第六條 通行人ニ對シ強ク遊技ヲ勸ムヘカラス

第七條 室内銃大弓半弓借馬ハ滿十二歳未滿ノ幼者又ハ白痴瘋癲醉狂者ヲシテ遊技ヲ爲サシムヘカラス

第八條 室内銃大弓半弓借馬ハ前條々ノ外仍ホ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

室内銃

- 一 射場標的ノ背後ハ松杉等ノ八分以上ノ板ヲ以テ張立左右兩側ハ六分以上ノ板ヲ以テ羽目張トナスカ又ハ堅固ナル壁ニテ流彈ヲ防止スルニ足ルヘキ構造ニ爲シ破損ヲ生シタルトキハ直チニ修理スヘシ
- 二 射程ノ距離ハ五間以上七間ヲ限リトシ發射ノ位置ヲ定メ限界ヲ設クヘシ
- 三 射擊銃ハ玉目一分以下火門ヨリ銃口マテ長サ曲尺五寸以内ノモノニ限ル
- 四 室内銃ノ賣買讓與ハ一般銃砲取締規則ニ準據シ雷管買入ハ本縣火藥取締規則第七條

ニ定ムル手續ニ從フヘシ

- 五 射的ニ供スル雷管ハ場内ニ於テ消費スルノ外賣渡スヘカラス
- 六 損所アル銃ハ使用セシムヘカラス
- 七 射法不慣ノ者ニハ銃ノ使用彈丸ノ裝填及射法ヲ傳アルノ後ニアラサレハ射擊セシムヘカラス

大弓及半弓場

- 八 射場ハ高サ七尺以上ノ板ヲ築キ仍ホ其上サ五尺以上ノ堅固ナル松杉等ノ八分以上ノ板張トナシ左右兩側ハ六分以上ノ板ヲ以テ羽目張トナスカ又ハ厚壁トナシ其他都テ流彈ヲ防止スルニ足ルヘキ構造ニ爲シ破損ヲ生シタルトキハ直チニ修理スヘシ
- 九 射場ヨリ標的ノ距離ハ五間以上ニ限ルヘシ
- 十 射法不慣ノ者ニハ弓箭ノ使用法ヲ傳ヘタル者ニマラサレハ發射セシムヘカラス
- 十一 損所アル弓箭ハ使用セシムヘカラス

借馬場

- 十二 馬場ハ堅固ナル埒ヲ設ケ乘馬ノ逸出ヲ防クニ足ルヘキ構造ニ爲シ破損ヲ生シタルトキハ直チニ修理スヘシ
- 十三 市街其他ハ乘廻レテ爲ストキハ必馬丁ヲ付スヘシ

○藝妓舞子營業取締規則

- 十四 損所アル馬具ノ使用スヘカラス
- 十五 病馬又ハ疲勞ノ爲メ乗用ニ堪ヘサル馬匹ヲ貸與スヘカラス
- 十六 馬場ハ不潔ナキ様時々掃除スヘシ
- 第九條 凡テ遊技時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
- 第十條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第九條及ヒ第八條中第三項第五項
- 第十三項ニ違背シ又ハ同條第一項第八項第十二項ノ修理又ハ第十六項ノ掃除ヲ怠リタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○藝妓舞子營業取締規則

○甲第六十八號 明治十八年六月一日

明治十四年^{十二}本縣甲第二百十四號布達藝妓舞子營業取締規則別紙ノ通改正來ル七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

藝妓舞子營業取締規則

- 第一條 藝妓舞子ノ營業ヲ爲サントスル者ハ該免許地貸座敷取締及ヒ町長ノ與印ヲ受ケテ書面ヲ以テ所轄警察署ヘ届出免許鑑札ヲ受シヘシ免許ヲ得スニテ營業スルヲ禁ス但貸座敷免許地内ニ住居セサル者ハ營業ヲ許サス

第二條 舞子營業ハ年齡十三年未滿ノ者ニ限ル滿十三年ニ至リ尙ホ繼續營業セントスルモノハ其月五日迄ニ前條同様ノ手續ヲ以テ所轄警察署ヘ届出藝妓營業免許鑑札ト書換テ請フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ轉居改氏名等ノ節ハ第一條同様ノ手續ヲ以テ所轄警察署ヘ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但納稅ヲ怠リ營業停止ノ處分ヲ受ケルカ又ハ廢業ノ節ハ其旨届出鑑札返納スヘシ

第四條 徵稅ニ關シ所轄郡役所ヘ届出ヲ要スルモノハ此規則ニ拘ハラヌ其成規ニ從ヒ届出

第五條 貸座敷ノ紹介ヲ經ス客ノ招キニ應スルヲ禁ス

第六條 客ノ招キニ應シ貸座敷免許地區域外ヘ出ルトキハ必ズ免許鑑札ヲ携帯スヘシ

第七條 此規則第一條第二條第三條第五條第六條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 前條ノ處分ニ付シタル者又ハ不正ノ所爲アルモノハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止スルコトアルヘシ

○貸座敷及娼妓營業取締規則

○縣令第百卅五號 明治廿二年十一月五日

○貸座敷及娼妓營業取締規則

明治十八年六月本縣甲第六十七號布達貸座敷及娼妓營業取締規則左ノ通改正ス

貸座敷及娼妓營業取締規則

第一章 貸座敷

第一條 貸座敷營業ハ左ノ區域内ニ限ル免許區域外ニ於テ營業スルコトヲ禁ス

滋賀郡大津町 字上馬場町

同町 字下馬場町

同町 字 甚七町

同町 字 南片町

坂田郡長濱町 字 南片町

蒲生郡八幡町 字池田町元字池田町

神崎郡八日市町 二町目字玉屋町元

犬上郡彦根町 字 袋 町

第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスルモノハ該免許地取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受ケテ

ル書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ免許ヲ得スルテ營業スルコトヲ禁ス

第三條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ代替改氏名轉居等ノ節ハ取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受

ケテ書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但賦金ノ納期ヲ忘リ又ハ等級ノ認可ヲ受ケサルニ依リ營業ヲ停止セラレ、カ若クハ廢

業ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ届出鑑札返納スヘシ

第四條 貸座敷營業者ハ各免許地毎ニ組合ヲ立テ取締所ヲ設置シ同業者中ヨリ正副取締各

一名ヲ撰定シ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ改撰シタルトキ亦同シ

第五條 正副取締人ノ得ヘキモノハ該免許地ニ住所ヲ定メ貸座敷ヲ營業スル滿二十年以

上ノ男子ニ限ルヘシ

第六條 正副取締其任ニ適セスト見認ルトキハ更ニ改撰シタルトキ又ハ特ニ指名シテ之ヲ命ス

ルコトアルヘシ

第七條 取締ハ貸座敷及ヒ娼妓舞子等ノ取締其他諸般ノ業務ヲ取扱ヒ取締事故アルトキ

ハ副取締其事務ヲ代理スヘシ

但正副取締ト雖モ自己營業上ニ於テハ一般營業者ト異ナルコトナシ

第八條 取締所ニハ貸座敷及ヒ娼妓舞子等ノ名稱ヲ備置キ各營業者ノ本籍身分氏名年齢

及ヒ免許ノ年月日等ヲ詳記シ異動アル毎ニ遺漏ナク訂正スヘシ

第九條 貸座敷營業者ハ各組合毎ニ左ニ記列シタル事項ニ付規約ヲ設ケ取締ヨリ所轄警察

署ヲ經由シ本縣廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ變更シタルトキ亦同シ

一 正副取締ノ任期給料及ヒ撰舉方法

○貸座敷及娼妓營業取締規則

- 二 取締所ニ於テ取扱事務條項
- 三 組合共同ノ經費收支ノ方法
- 四 藝娼妓舞子等ヲ寄寓セシムルニ付テノ契約方法
- 五 藝娼妓舞子等ノ花代金
- 六 組合營業者違約處分方法
- 七 前各項ノ外營業上必要ノ條件
- 第十條 藝娼妓舞子等ヲ寄寓營業セシムルニハ寫ト其身元ヲ取糾シ重タル親戚親戚ナキ者ハ身元擔ナル保證人
- 第十一條 藝娼妓舞子等ノ誠實ニ取扱ヒ娼妓ハ成ルヘク速ニ正業ニ就カシムル様注意シ故
- 第十二條 貸座敷營業者ハ遊客人名簿ヲ調製シ遊客ノ住所氏名年齢通拂金額並ニ遊興時間及ヒ招カレタル藝娼妓舞子等ノ氏名ヲ記載シ尙ホ同様詳細ナル届出ヲ作リ毎朝必ズ取締所へ差出スヘク取締所ニ於テハ之ヲ取纏テ速ニ所轄警察署へ差出スヘク
- 第十三條 遊客中人相書ニ符合又ハ類似スルカ若シハ不相應ノ金銀物品ヲ所持シ其他不審ノ舉動アリトキハ直チニ所轄警察署又ハ巡回ノ巡查へ申告スヘク
- 第十四條 遊興代ノ抵當トシテ客ノ衣類物品ヲ受取又ハ質入賣却等ノ周旋ヲ爲スヘカラス

- 止ムヲ得サレ場合ニ於テハ其品相添所轄警察署へ届出認可ヲ受クヘク
- 第十五條 貸座敷營業者ハ店頭ニ業名ヲ記シタル看板及ヒ行燈ヲ掲クヘク但營業停止中ハ看板行燈ヲ掲タルコトヲ禁ス
- 第十六條 娼妓ニ店ヲ張ラセ通行人ニ遊興ヲ勸ムルコトヲ禁ス
- 第十七條 遊客ノ需メサル酒食等ヲ出シ又ハ不當ノ遊興代ヲ請求スヘカラス
- 第十八條 本人及ヒ父兄等ノ承諾ナキ婦女ヲ勸誘シ藝娼妓舞子等ノ營業ヲ爲サシムヘカラス
- 第十九條 客ノ招キニ應ニ娼妓ヲ免許貸座敷外へ出シ又ハ免許鑑札所持セサル婦女ニ藝娼妓舞子等ノ所業ヲ爲サシムヘカラス
- 第二十條 手傳其他何等ノ名義ニ拘ラヌ家族ノ外酌入ノ認可ヲ受ケサル者ヲシテ客席ニ待
- ニ杯盤ノ間ニ周旋ヲ爲サシムヘカラス(廿八年三月縣令第八號ヲ以テ追加)
- 第二十一條 娼妓ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ瀧毒ノ徵候アルトキハ速ニ檢査醫ノ檢査ヲ受ケシムヘク瀧毒其他傳染病ニ罹ルモノヲ客ノ招キニ應セシムルコトヲ禁ス
- 第二十二條 營業上ニ付テハ家屬雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘク
- 第二十三章 娼妓
- 第二十三條 娼妓營業ヲ爲サントスルモノハ重タル親戚親戚ナキ者ハ身元擔ナル保證人二名以上並ニ貸座敷

○貸座敷及娼妓營業取締規則

○貸座敷及娼妓營業取締規則

七十二

主等連署シ該免許地取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受ケタル書面ニ當人戸籍ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受ケヘシ免許ヲ得スルヲ營業スルコトヲ禁ス

第二十四條 娼妓ハ免許貸座敷ニ居住シ年齡滿十六年以上ニシテ身體検査ヲ受ケ其營業ニ堪ユルモノヨアラザレハ許可セサルヘシ

第二十五條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ改氏名轉居等ノ節ハ貸座敷主轉居ノ節ハ取締人ノ連署ヲ取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但賦金ノ納期ヲ怠リ營業ヲ停止セラル、カ又ハ廢業ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ届出體札返納スヘシ

第二十六條 娼妓ハ客ノ招キニ應ジ免許貸座敷外ニ出ツルコトヲ禁ス

第二十七條 廢業又ハ他ヘ轉居セントスルニ貸座敷主ニ於テ故ナク故障シタルトキハ速ニ所轄警察署ヘ申出ツヘシ

第二十八條 遊客ヨリ金錢物品等ヲ預リ又ハ貰受ケタルトキハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ

第二十九條 遊客中人相書ニ符合又ハ類似スルカ若クハ不相應ノ金錢物品ヲ所持シ其他不審ノ舉動アルトキハ直ニ貸座敷主ニ密告スヘシ

第三十條 癩毒ノ徵候アルトキハ直ニ貸座敷主ニ告知シ檢査醫ノ検査ヲ受クヘシ(廿八年三月縣令第八號)

第三十一條 檢査定日ニハ必ズ檢査所ヘ出頭シ檢査ヲ受クヘシ若シ疾病其他止ム事得サハ事故アリテ出頭不能者又ハ營業停止中ノ者ハ其事由ヲ詳記シテ書面ニ貸座敷主連署ノ上取締所ニ經由シ檢査所ヘ届出シテ事故畢ルカ又ハ營業傳傳ノ命ヲ受ケタルトキハ檢査ヲ受クヘシ又ハ客ノ招キニ應ジスルコトヲ禁ス

第三章 罰則

第三十二條 此規則第一條第二條第三條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條ニ違背シ又ハ營業停止中ニハ營業スルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處ス又ハ貳拾圓以上壹圓貳拾五圓以下ノ科料ニ處ス

第四章 附則

第一條

原典第五

行燈後面註記

規則施行細則

○貸座敷及娼妓營業取締規則

七十二

主等連署シ該免許地取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受ケタル書面ニ當人戸籍ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ免許ヲ得スシテ營業スルコトヲ禁ス

第二十四條 娼妓ハ免許貸座敷ニ居住シ年齢滿十六年以上ニシテ身体検査ヲ受ケ其營業ニ堪ユルモノニアラザレハ許可セサルヘシ

第二十五條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ改氏名轉居等ノ節ハ貸座敷主轉居ノ節ハ双方ノ貸座敷主方ノ貸座敷主ト連署シ取締人ノ奥印及ヒ町長ノ職印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但賦金ノ納期ヲ怠リ營業ヲ停止セラルカ又ハ廢業ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ届出鑑札返納スヘシ

第二十六條 娼妓ハ客ノ招キニ應ジ免許貸座敷外ニ出ツルコトヲ禁ス

第二十七條 廢業又ハ他ヘ轉居セントスルニ貸座敷主ニ於テ故ナク故障シタルトキハ速ニ所轄警察署ヘ申出ツヘシ

第二十八條 遊客ヨリ金錢物品等ヲ預リ又ハ貰受ケタルトキハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ

第二十九條 遊客中ハ相書ニ符合又ハ類似スルカ若クハ不相應ノ金錢物品ヲ所持シ其他不審ノ舉動アルトキハ直チニ貸座敷主ニ密告スヘシ

第三十條 癩毒ノ徵候アルトキハ直ニ貸座敷主ニ告知シ檢癩醫ノ検査ヲ受クヘシ(廿八年三月縣令第八第

ヲ以テ追加)

第三十一條 檢癩定日ニハ必ス検査所ヘ出頭シ検査ヲ受クヘシ若シ疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ出頭シ難キ者又ハ營業停止中ノ者ハ其事由ヲ詳記シタル書面ニ貸座敷主連署ノ上取締所ヲ經由シ検査所ヘ届出ツヘシ事故畢ルカ又ハ營業解停ノ命ヲ受ケタルトキハ臨時検査ヲ受クシルニアラザレハ客ノ招キニ應ズルコトヲ禁ス但疾病ニ罹リタルトキハ主治醫ノ診斷書ヲ添フヘシ

第三章 罰則

第三十二條 此規則第一條第二條第三條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條ニ違背シ又ハ營業停止中私ニ營業シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十三條 第三十條ノ處分ニ付シタルモノ其他不正ノ所爲アルモノハ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

看板彫形

曲尺縦二尺八寸横七寸

厚サ適宜木質楡

行燈表面彫形

製造法並ニ寸法適宜

○貸座敷及娼妓取締規則

七十二

口貨座敷營業

何々事
氏々事
名

貨座敷營業

左右側面へハ姓名又ハ家號ヲ適宜記入
スルコトヲ得

取締所門標離形

寸法未定

口貨座敷取締所

○料理屋飲食店取締規則

滋賀縣令第六號

料理屋飲食店取締規則左ノ通之ニ定ム

明治廿八年三月十六日

滋賀縣知事 大越 亨

料理屋飲食店取締規則

第一條 料理屋又ハ飲食店ノ營業ヲ爲サントスル者ハ町村長ヲ經由シ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ但未定年者及白痴癡癡者ハ後見人ヲ定メ届出ヘシ

第二條 廢業代替改氏名又ハ轉居シタルトキハ七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第三條 夜間十二時後日出迄ノ時間ハ歌舞音曲ヲ爲サシムヘカラス

第四條 夜間十二時ヲ過キ止ムヲ得ス宿泊シタル者アルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ詳記

シ翌日午前九時迄ニ所轄警察署又ハ警察分署若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第五條 家族又ハ酌人等ヲシテ遊舞妓ニ紛ハ敷所業ヲ爲サシムヘカラス

第六條 手傳其他何等ノ名義ニ拘ハラス家族ノ外酌人ノ認可ヲ受ケサシテ客席ニ侍

シ杯盤ノ間ニ周旋ヲ爲サシムヘカラス

第七條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ

拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八條 本則ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス

第九條 從來ノ營業者ハ本則第一條ノ手續ニ依リ明治廿八年三月卅一日迄ニ届出ヘシ

酌人取締規則

○滋賀縣令第七號

酌人取締規則

第一條 本則ニ於テ酌人ト稱スルハ貨座敷料理屋飲食店ニ於テ客席ニ侍シ杯盤ノ間ニ周旋
スル婦女ヲ云フ

○酌人取新規則

七十六

- 第二條 酌人、遊藝隊人ヲ兼スルヲ得ス(廿九年一月本縣令第六號ヲ以テ)
- 第三條 貸座敷料理屋飲食店ニ雇ハレ酌人ノ業ヲ爲サントスル者、族籍住所氏名年齢及被雇期限ヲ詳記シ、雇主、連署、町村長ヲ經由シ、所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受ク
- 但一定ノ雇主ナク臨時各所ニ雇ハレ酌人ノ業ヲ爲サントスル者ハ雇主ノ連署ヲ要セズ
- 第四條 認可證ヲ遺失毀損シ又ハ轉居改氏名ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ前條ノ手續ニ依リ届出書換又ハ再渡ヲ請ヒ廢業シタルトキハ七日以内ニ認可證ヲ返納スヘシ
- 第五條 遊藝隊ニ紛ハ敷所業ヲ爲スヘカラス
- 第六條 業務ニ關シ他出スルトキハ認可證ヲ携帯スヘシ
- 第七條 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認めル者ハ認可セズ又認可ノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアレヘシ
- 第八條 本則第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附 則
- 第九條 本則ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス
- 第十條 本則ニ該當スル酌人ハ第三條ノ手續ニ依リ明治廿八年三月卅一日迄ニ届出認可ヲ受クヘシ

○娼妓癩毒検査規則

○丙第五十九號 明治十八年六月廿日

貸座敷所在

戸長 役場

貸座敷營業取締

娼妓癩毒検査規則別冊ノ通相定メ來レ七月一日ヨリ施行候條此旨該營業者へ可相達候事

(別冊)

娼妓癩毒検査規則

- 第一條 凡娼妓ハ一週間ニ一回癩毒ノ有無ヲ検査スヘシ
- 但検査定日ハ驅癩院ヨリ告示スヘシ
- 第二條 検査ノ上癩毒ナキモノハ左式ノ檢癩證ハ檢印及ヒ検査醫員ノ認印ヲ押捺シテ之ヲ下付シ癩毒アリモノハ直チニ入院治療セムヘシ
- 但驅癩院遠隔ノ地ニ在テハ時宜ニヨリ最寄公私立病院等ニ囑托シ治療セムルヲアル

癩癩證 離形

○娼妓癩毒検査規則

七十七

第三條 檢査ハ、騷擾院員直ニ娼妓ノ營業地ニ就テ之ヲ行フヘシ

明治何年 何月何日	滋賀縣 騷擾院團
檢査證 何那何町何番地 何某方 何某	印割

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一回												
二回												
三回												
四回												
五回												

第四條 娼妓營業免許地ニハ、毎地必ス檢査場ヲ設ケ置シヘシ

第五條 娼妓自ラ有毒ノ徵アリト思料シタルモノ及ヒ新ニ娼妓營業ヲナサント欲スルモノハ、臨時騷擾院若シハ檢査場ニ於テ檢査ヲ受クヘシ

第六條 娼妓疾病ニ罹リ檢査當日出頭シ難キ旨檢査所ヘ届出タルトキハ、檢査醫員其家ニ臨ニ檢査ヲナスコトアルヘシ

第七條 娼妓有毒ノモノヲ入院セシムルトキハ、營業鑑札并檢査證ヲ騷擾院ニ領置シ、治療退院ノ節之ヲ下付スヘシ

第八條 娼妓入院中廢業ヲナスモ、治療半途ノモノハ、退院ヲ許サス
但、入院中他病ヲ發スル者ハ、廢業スルト否トニ拘ハラズ、時宜ニヨリ退院ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 娼妓入院中ハ、外出ヲ許サス若シ父母近親等ノ病氣又已ムコト得サル事故アリテ一時出院ヲ欲スル者ハ、醫師ノ診斷書若シハ、其事故ヲ委シテ認メタル書面ヲ以テ願出ントキハ、之ヲ許スコトアルヘシ

第十條 娼妓入院中ハ、左ノ面會鑑札ヲ携帯スル者ニ非レハ、面會ヲ許サス尤モ該鑑札ハ、騷擾院ヨリ豫メ貸座敷主ヘ下付シ置クヘシ
但、貸座敷取締人ノ書面ヲ以テ面會ヲ乞フモノハ、時宜ニ由リ之ヲ許スコトアルヘシ

○娼妓廳檢査規則

鑑札雛形 但木材 堅二寸三分

第何號

○面會鑑札

娼妓廳 鑑印

貸座敷主ノ名ヲ署ス

何郡何村町

何之誰

昭和十一年

第十一條 檢査ノ際ハ檢査場ニ於テヌルト娼妓所在ノ家ニ於テヌルト問ハス必警察官之

ニ隨監スヘシ

第十二條 檢査場ニ於テ檢査ノ節ハ必ス娼妓一名ヲ以テ娼妓ニ附添ハシムヘシ

第十三條 檢査場ニ於テ檢査ノ節ハ附添娼妓ノ外檢査ノ室ニ入ルヲ許サス

第十四條 檢査ノ當日ハ正副貸座敷取締人ノ内一名檢査場へ出頭シ出張員ノ指揮ヲ受テ諸般ノ幹旋ヲナスヘシ

第十五條 娼妓廳業又ハ轉居改氏名其他一身上ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度驅煤院へ届出ツヘシ

第十六條 檢査證ヲ遺失毀損シタルトキハ速ニ驅煤院へ届出再渡ヲ請フヘシ

第十七條 凡ソ檢査上ニ係ル願屆書等ハ必ス貸座敷取締人之レニ連署スヘシ

第十八條 娼妓入院中ノ食費寢具及治療上ノ諸費ハ驅煤院ヨリ支給ス第四條檢査場ニ係ル諸費ハ貸座敷業者ヨリ支辨スヘシ

但他病ニ罹リ通院治療ヲ乞フモノハ藥價其他治療上ノ諸費總テ本人ヨリ支拂ハシムヘシ

○賦金規則

滋賀縣令第六十三號

○賦金規則

○賦金規則

賦金規則左ノ通改正ノ本年六月一日ヨリ施行ス

明治廿四年五月卅日

滋賀縣知事 渡邊 千秋

賦金規則

第一條 貸座敷及娼妓業者ノ賦金ハ左ノ如シ(二十六年縣令第十三號ヲ以テ本條中三等地ノ分追加)

等場所	場所	賦金			娼妓一人ニ付
		上等	中等	下等	
一等地	滋賀郡大津町 阪田郡長濱町	金四圓	金三圓五拾錢	金三圓	金二圓
二等地	大上郡彦根町	金三圓五拾錢	金三圓	金二圓五拾錢	金一圓五十錢
三等地	蒲生郡八幡町 神崎郡八日市町	金三圓	金貳圓五拾錢	金貳圓	金壹圓廿五錢

第二條 貸座敷開業ノ許可ヲ受ケタルモノハ其等級ヲ定メ三日以内ニ其既定ノ等級ヲ變更セントスモハ其時々取締ノ連署ヲ以テ町役場ヲ經由シ郡長ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

開業ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ前項ノ期日ヲ過キ届出テサルトキ又ハ高等ノ等級ニ變更スヘキモノコレヲ其届出ヲササハルトキハ郡長ニ於テ其等級ヲ査定スヘシ

第三條 娼妓癩毒ニ罹リ入院シタルモノハ其退院前日迄ノ賦金ハ日割ヲ以テ之ヲ還付ス前項ニ依リ賦金ノ還付ヲ請ハントスルモノハ驅纏院長ノ證明書ヲ添ヘ賦金取纏人アル地ハ其取纏人ノ連署ヲ以テ町役場ヲ經由シ郡長ニ請求スヘシ

第四條 賦金ニ差違ノ場所へ轉居シ若シハ等級ヲ變更シタラバ月々多額ノ賦金ヲ納付スヘシ

第五條 開業廢業禁業停業又ハ解停ノトキ營業一ヶ月未滿ト雖モ其月ノ賦金ハ全額ヲ納付スヘシ

但シ廢業ノ届出ヲ怠リタルモノハ實際廢業ノ日時ニ拘ハラヌ其届出ノ日ヲ以テ賦金ノ徵否ヲ區別ス

第六條 賦金ハ町長ノ通知書ニ依リ其月十日限り納付スヘシ但シ毎月十日ヲ過キ徵收スルモノハ町長ノ定ムル期限ニ納付スヘシ

前項ノ期限ヲ過キ賦金ヲ完納セサルモノハ郡長ハ其賦金ヲ完納スル迄營業ヲ停止スヘシ第七條 貸座敷及娼妓業者ハ町役場ヲ經由シ郡長ノ認可ヲ受ケ各免許地毎ニ賦金取纏人ヲ置キ賦金ヲ取纏メ之ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ町長ハ取纏入ニ通知書ヲ發スルコトヲ得

○雇人受宿取締規則

第八條 賦金取纏人ハ納期限ニ至リ未納者アリハ期限ノ翌日其名氏ヲ町長ニ届出ツヘシ

○雇人受宿取締規則

○縣令第七十一號 明治廿年二月十日

雇人受宿取締規則左ノ通相定ム

雇人受宿取締規則

第一條 雇人受宿營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受ケ廢業ノ節其旨届出ルルニ依リ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正)

第二條 左ノ各項ニ觸ルル者ハ免許ヲ與ヘス

一 幼者ヲ畧取誘拐シタル罪ニ依リ處斷ヲ受ケタルモノ

一 十六歳ニ滿ラサル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル罪ニ依リ處斷ヲ受ケタルモノ

一 密カニ賣淫ヲ爲スル媒合容止ヲ爲シタル罪ニ依リ處罪ヲ受ケタルモノ(上全)

第三條 雇人受宿營業免許ヲ得タル者ハ離形ニ依リ看板ヲ製シ店頭へ表出スルベシ

第四條 受宿ノ世話料ハ雇人雇入期限一ヶ年以上ナレハ一ヶ年給金高ノ一割以内又一ヶ年未滿ナレハ其雇入期間給金高ノ一割以内トシ雇主及ヒ雇人双方ヨリ其半額ヲ申受クベシ

第五條 雇期限内雇主又ハ雇人ノ都合ニ依リ解雇スル節給金下渡及ヒ返却又ハ世話料償ヒ方(將ハ一ヶ年雇人ノ約定ナシハ六ヶ月目ニ至リ雇主ノ都合ニ依リ解雇スルトキハ雇人ヨリ受宿へ拂ヒタル額リ等六ヶ月分ニ該當スル世話料ヲ雇主ヨリ雇人へ償フノ類雇人ノ都合ヲ以テ雇人辭シタルモ亦此例ニ同シ)

ハ最初口入ノ際受宿並ニ雇主雇人等立會約定ヲ取結置クベシ

第六條 受宿ハ雇人ノ身元ヲ取調ヘ下受人ヲ取置クベシ

第七條 受宿ハ雇主ノ對シ雇人身元ノ保証ヲナスルニ依リ其條件ハ最初口入ノ際雇主ト豫メ約

定メ爲シ置クベシ雇人身元下受人ハ受宿ニ對シ保証ノ責ニ任ズルベシ

但廢業シタル後ト雖モ口入シタル雇人ノ雇入約定期限中ハ本文ノ通りタルベシ

第八條 受宿ハ雇人口入名簿ヲ調製シ左ノ各項ヲ詳記シ異動アルトキハ之ヲ加除訂正シ警察官ノ調査ニ差支ナキ様保存スルベシ

一 雇人ノ住所氏名年齢

一 雇入ノ期限

一 給金額

一 下受人ノ住所氏名

一 雇主ノ住所氏名

第九條 雇人ヲラント欲スル者ヲ口入ニ事寄セ受宿ニ止宿セシメ又ハ雇人ノ懐胎ヲ押隠シ口入スルハカラス

第十條 雇人ト押合又ハ之ヲ欺キ雇先キキ轉換セシムルハカラス(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ)

第十一條 受宿ハ雇主又ハ雇人ニ對シ本則第四條ニ掲グル外種々ノ名義ヲ以テ出金ヲ請求スルベシ

第十二條 雇人ヲラント欲スル者ニ對シ不審ノ舉動アルトキハ直チニ所轄警察署分署又ハ

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

(全縣ニテ派出所居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

巡查駐在所若シハ巡回巡查ニ密告スルベシ

○瘋癲人取締規則

第十三條 警察官吏ハ時々家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十四條 免許ヲ得スルテ營業シ又ハ本則第三條第六條第八條第九條第十條第十一條第十

二條ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿七條ノ刑ニ處ス

看板離形

堅二尺 横八寸

厚サ并ニ木質適宜

明治何年何月何日免許

雇人 受宿 營業

何郡何町(村)何番地

氏名

○瘋癲人取締規則

○照令第十號 明治廿年一月十三日

瘋癲人取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年二月甲第廿號布達ヲ廢ス

瘋癲人取締規則

第一條 瘋癲症ニ罹リタル者アレトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシメ自他傷害ノ虞ナキ様相
當看護シ其患者ノ氏名年齢等ヲ詳記シタル書面ニ醫案ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出
ヘシ快適ニシタルトキ亦同シ

第二條 患者ノ症候狂暴ニシテ自他ノ傷害ヲ防ノ爲メ家宅ニ鎖鑰セントスルモノハ其患者
ノ氏名年齢及ヒ狂暴ノ狀況等ヲ詳記シタル書面ニ患者至親ノ親屬二名以上ノ連署ヲ以テ
醫案并ニ鎖鑰室ノ圖面等ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受シヘシ (二十二年照令第
正) 二十九號ヲ以テ

第三條 患者ヲ他ヘ轉居セントキハ其轉居先ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘ
シ復歸セントキハ其旨届出ヘシ

但轉居地他ノ警察署又ハ分署部内ニ係ルトキハ其轉居地所轄警察署又ハ分署ヘモ第一
條第二條ニヨリ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 鎖鑰室ハ三疊以上ニシテ少クモ二方ニ空氣ノ流通ニ適當ナル窓一個以上ヲ設ケ衛
生上妨害ナキ様構造シ警察官ノ檢査ヲ受クヘシ變更シタルトキ亦同シ

第五條 患者ヲ鎖鑰シタルトキハ家族ニ於テ常ニ本人ノ舉動ニ注意シ必要ノ衣食ヲ與フル

○瘋癲人取締規則

ハ勿論醫療ヲ加ヘ且ツ室内ヲ清潔ニシテ其他衛生上保護ノ手續ヲ怠ルヘカラス

第六條 患者ノ病症快癒スルカ又ハ危篤ニ瀕シタルトキハ速ニ解體シ醫藥ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正)

第七條 本則ニ據ル願届ハ患者ノ父兄若シテキトキハ患者至親ノ親屬ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八條 瘋癲人アル家宅ヘハ時々警察官臨檢シ又ハ醫師ヲ引卒患者ヲ檢診スルコトヲアルヘシ

○家屋建築規則

○縣令甲第五十二號 明治十九年二月廿二日

家屋建築規則別冊ノ通相定メ大津八幡彦根長濱ノ市街及ヒ連橋接續地ニ施行ス

(別冊)

家屋建築規則

第一條 新クニ家屋ヲ建設シ若シハ改造セントスルモノハ第一號届書ニ第二號第三號ノ繪圖面及ヒ工事仕様書ヲ添ヘ工事着手一ヶ月前所轄警察署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

但附屬家又ハ倉庫等ヲ建設シ又ハ井戸ヲ新鑿シ若シハ之ノ等ノモノヲ改造スルトキハ亦本條ニ同シ

第二條 左ノ各項ノ一アルトキハ認可ヲ與ハス

一 家屋一戸建坪六坪未満ノトキ

二 危険ノ虞アリト認めセシトキ

三 健康ニ害アリト認めセシトキ

四 構造法ニ從ハサルトキ

第三條 表地ニ於テ木造一戸立ノ家屋ヲ建設セントスルモノハ屋後柱際ヨリ一丈二尺ノ空地ヲ存ス可シ屋後ニ建物ナク空氣ノ流通ニ妨ケナキ場所ハ此限ニアラヌ

第四條 裏地ニ於テ一戸立ノ家屋ヲ建設セントスルモノハ第五條第三項第四項第五項ニ從フヘシ

第五條 一棟二戸以上ノ家屋ヲ長屋トシ其建設ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 一棟ノ長屋ハ五戸以下トス

二 背合セニ住居スルノ長屋ヲ建設スルヲ禁ス

三 屋後柱際ヨリ一丈二尺以上ノ空地ヲ設ク可シ

但屋後ニ建物ナク空氣ノ流通ニ妨ケナキ場所ハ此限ニアラヌ

四 裏長屋ノ前面ハ柱際ヨリ九尺以上ノ通路ヲ設ク可シ若シ他ノ家屋ト相對シタルトキハ雙方ノ間ニ一丈二尺以上ノ通路ヲ設ク可シ

五 裏長屋ニ在ラハ表屋ヲ通過セス別ニ六尺以上ノ路次ヲ設ク可シ

- 六 便所ハ必ス一戸毎ニ設ク可シ
- 七 一戸ヲ二戸以上ニ區別スル爲メハ必ス土壁ノ厚サ三寸以上ニシテ床下ニ及ブ可シ
第六條 便所及ヒ井溜ト飲料水トノ距離ハ自他ノ別ナク一丈二尺以上ヲモテ
又樋ヲ以テ引キタル水溜及特別ノ構造ヲ爲ス井戸ハ其距離六尺以下ニシテ得
- 第七條 家屋ヲ有スルモノハ下水溜水ヲ流通セシム可キ相當ノ溝渠若クハ樋ヲ設クヘシ
- 第八條 家屋ノ地盤ハ下水ノ上端ヨリ三寸以上上床ノ高サハ地盤ヨリ一尺五寸以上天井ノ高
サハ床上七尺以上住居ニ供スルニ階ノ天井ノ高サハ六尺五寸以上トス
- 第九條 住居ニ供スルニ階ハ少クモ二方ニ於テ空氣ノ流通ニ適當ナル窓各一個以上ヲ設ク
可シ
- 第十條 屋根ヲ葺クニ燃質物ヲ用ニルヲ禁ス
- 第十一條 家屋其他落成ノ上ハ所轄警察署ニ届出テ検査ヲ受ケ認可ヲ得ルニテラサレハ之
ヲ使用スルヲ得ス
- 第十二條 井戸便所溝渠ノ破損シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フ可シ
- 第十三條 本則第一條ノ認可ヲ得ス工事ニ着手シタルモノハ刑法第四百廿六條ノ刑ニ處シ
尙キ行政ノ處分ヲ以テ改造ヲ命ジ若クハ使用ヲ禁スルヲアルヘシ

井戸溝渠樋管廁圍芥溜構造法

一 井戸ノ圍圍ト其距離一丈二尺二間以内ニ在ルモノハ左ノ如ク構造スヘシ尤モ距離一丈二
尺外ト雖モ井戸側ナキモノハ附キス

第一

一 小井 最下底ノ井 ヨリ以上ノ側ハ漆喰或ハ割石ノ石垣又ハ切石等ノ構造ニシテ繼目及ヒ合端
ハ漆喰叩ニテ詰メ毫モ水氣ヲシテ外部ヨリ漏泄スルコトナカラシム

第二

一 他ヨリ樋管ヲ以テ引用スル溜井戸モ前項ニ準ス

溝渠及樋管

一 悪水抜溝渠及樋管ハ一戸ニ附屬スルモノハ内法深巾四寸以上トシ長屋ニ附屬スル即チ二
戸以上ノ悪水ヲ疏通スルモノハ同六寸以上ニシテ自他ノ排水ニ害ナク其末流ハ接近ノ大
溝渠ヘ放流スヘキ構造ヲ爲シ其勾配ハ一間ニ付二分以上トス

一 溝渠ノ構造ハ左ノ數項ノ一ニ據リ官有道路敷地等ニ係ル場所ハ相當ノ蓋ヲ設クルモノト
ス

第一

一 兩側底トモ切石ニシテ合端煉漆喰ヲ施コスモノ

第二

一兩側割石ニシテ底及ヒ合端全上ノモノ

第三

一兩側全上ニシテ底ニ石瓦ヲ敷キ合端全上ノモノ

第四

一兩側及ヒ底トモ瓦ニシテ合端以上ノモノ

第五

一兩側底共漆喰叩キノモノ

第六

一兩側底共木造ナレハ板厚一寸以上ニシテ繼目ハ檜皮打ニシテ長サ三尺毎ニ梁木ヲ附ルモノトス

一水管ハ鉄管又ハ土管陶器ヲ木桶或ハ竹管トスニ管ノ繼目ハ漆喰或ハ「セメント」ヲ用ヒ木桶ハ松栗槓ノ類ニシテ板厚サ一寸以上トシテ又竹管ハ周圍粘土ヲ以テ包括ス(廿四年十月縣令百號ヲ以テ改正)

廁圍

一廁ハ必ス屋根アルモノニ限リ便蓋ハ漆喰叩或ハ陶器(素焼ト唱フルモノヲ除ク)ニシテ其上面周圍ハ叩キ漆喰ヲ施スモノナリ

芥溜

一芥溜ハ左ノ二項ノ一ニ據ルハヤ

一蓋ヲ有シ塵芥ヲ掃除スルニ便ナレ箱若シハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受器ニシテ汚汁ノ漏洩セサルモノニ限リ

一穴ヲ穿テ芥溜ト爲ストキハ漆喰ヲ施シ汚汁ノ滲透セサルモノニ限リ且ツ必ス蓋ヲ有スルモノ

家屋建設(改造)屆

何郡何町何番地

身分職業

何某所有地

右地所ハ別紙繪圖面ノ通り何月何日ヨリ家屋建設(改造)致度ニ付御檢査ノ上御認可被下度仕様書相添運署ヲ以テ御届仕候也

何郡何町何番地

建設(改造)人 身分職業

何某印

何郡何町何番地

接續地主者

全

何某印

何郡何町何番地

クハ家主

全

何某印

何郡何村何番地

全

全

何 某 印

何警察署

御 中

前書ノ通ニ付奥印仕候也

戸

長

印

(附屬家倉庫井戸等ノ新設改造等モ又本文ニ準ス可シ)

家屋建築仕様書

一家屋一棟

但二階カ此建坪何拾何坪軒高何十何尺階上天井高何尺何寸階下何尺何寸床高何尺何寸層根勾配何寸何造

該仕様側柱下丁堀^{何何尺}何石何重ニ築固メ其上ハ葛石^{何何寸}据付又土臺木^{何何寸}ノ何木ヲ据付隅柱何木何寸角側柱何木^{何何寸}表側柱何木^{何何寸}梁何木何寸角或ハ末口何寸登リ木或ハ合掌梁ハ何木何尺ニ何尺又ハ末口何寸小屋東何木何寸角棟母屋軒桁ハ何木^{何何寸}何サマ^{何何寸}二階枕木何木^{何何寸}全偏木^{何何寸}床大引何木^{何何寸}小根木何木^{何何寸}座板何木厚何寸二階板何木厚何寸椽何木厚何寸板ヲ以テ小口張カ或ハ樽腰表人見約何木^{何何寸}壁下地ハ木或ハ竹壁厚何寸屋

根椽瓦一坪何拾何枚葺ニ棟包裏斗何段樋ハ竹或ハ銅或ハ鉄板ヲ以テスル等ノ

井戸新設仕様書

一井戸取設所ハ自他兩便所ヲ距ル^{何何尺}何間何尺ニシテ深サハ何丈何尺之見込内法徑^方何尺何寸小井ハ生松^{或ハ}深何尺ニテ夫ヨリ上部ノ側ハ漆喰^{或ハ割}ニシテ合端ハ総テ漆喰ニテ充分ニ詰メ外部ヨリ濕氣ノ洩レサル様仕立セモノトス

溝渠新設仕様書

一溝渠ハ遺ヒ水雨水共ニ総テ悪水ヲ疏通スル見込ニテ大溝ハ達スル迄ノ距離何間何尺深何寸幅何寸ニシテ構造法第何項ニ據リ^石漆喰^叩木造^{ニテ}下リ勾配ハ一間ニ付何寸何分ヲ有シ^{何何寸}モノトス

樋管新設仕様書

一悪水按樋管ハ大溝ハ達スル迄距離何間ノ處何國製土樋内法徑何寸ヲ何木繼ニテ繼目ハ悉ク漆喰ヲ以テ密閉シ^{距離何間ノ處内法徑何寸ノ木樋}コテ其用材ハ何木長何間厚何寸ノ板ヲ用ヒ四方釘打繼目ハ鐵ヲ以テ繫キ^{地盤ヨリ何尺底ニ伏込尤モ下リ勾配ハ一間ニ何寸何分ヲ有シ}モノトス

廁圍下部ノ仕様書

一廁圍ノ蓋ハ何處燒^{ニシテ}内法徑何尺何寸之^{ニシテ}地盤ヨリ何寸下ケテ埋込其周圍ハ漆喰

○家屋建築規則

叩厚何寸ニシテ並縁ハ勾配ヲ有シムルモイ何寸トス

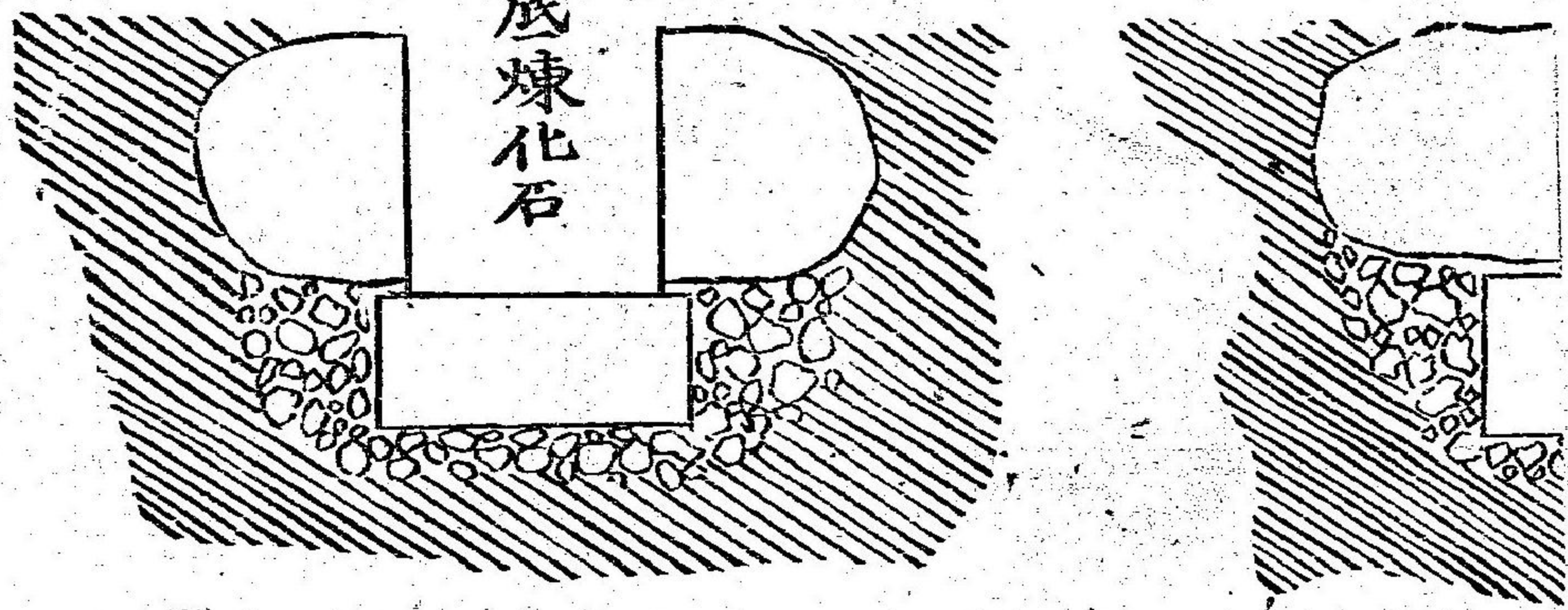
(參考)

○告示第廿二號 明治廿年二月九日

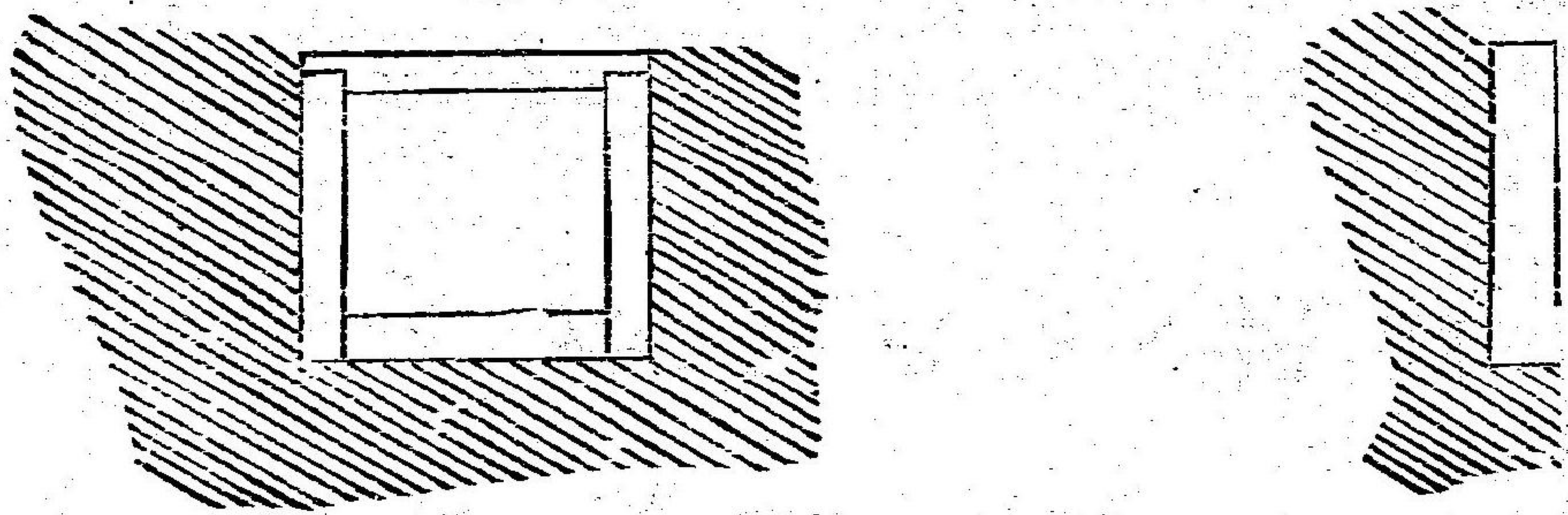
客年^{十二}月^{十二}縣令甲第五十二號家屋建築規則施行區域左ニ示ス

- 一 大津市街及ヒ連檐接續地ニ在テハ別紙圖面ノ通り
- 一 八幡市街^{宮内町}及ヒ連檐接續地ハ朝鮮人街道ニ係ル小舟木村ノ内齋字寺町表通兩側大林^{砲町ヲ除ク}村ノ内字出町表通兩側中村ノ内字出町表通兩側トス
- 一 彦根長濱ハ全市街

兩側割石底煉化石

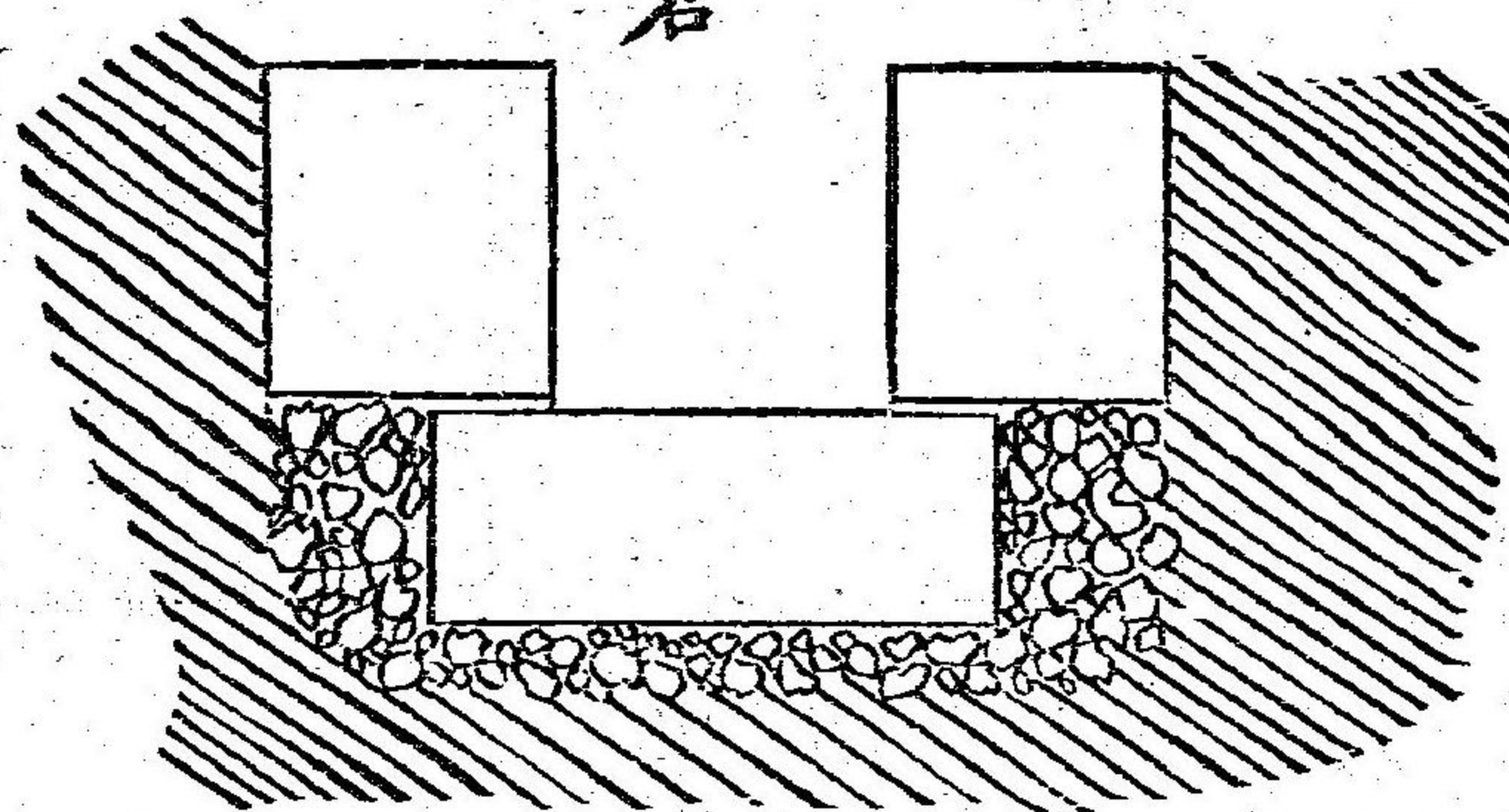


總体水造

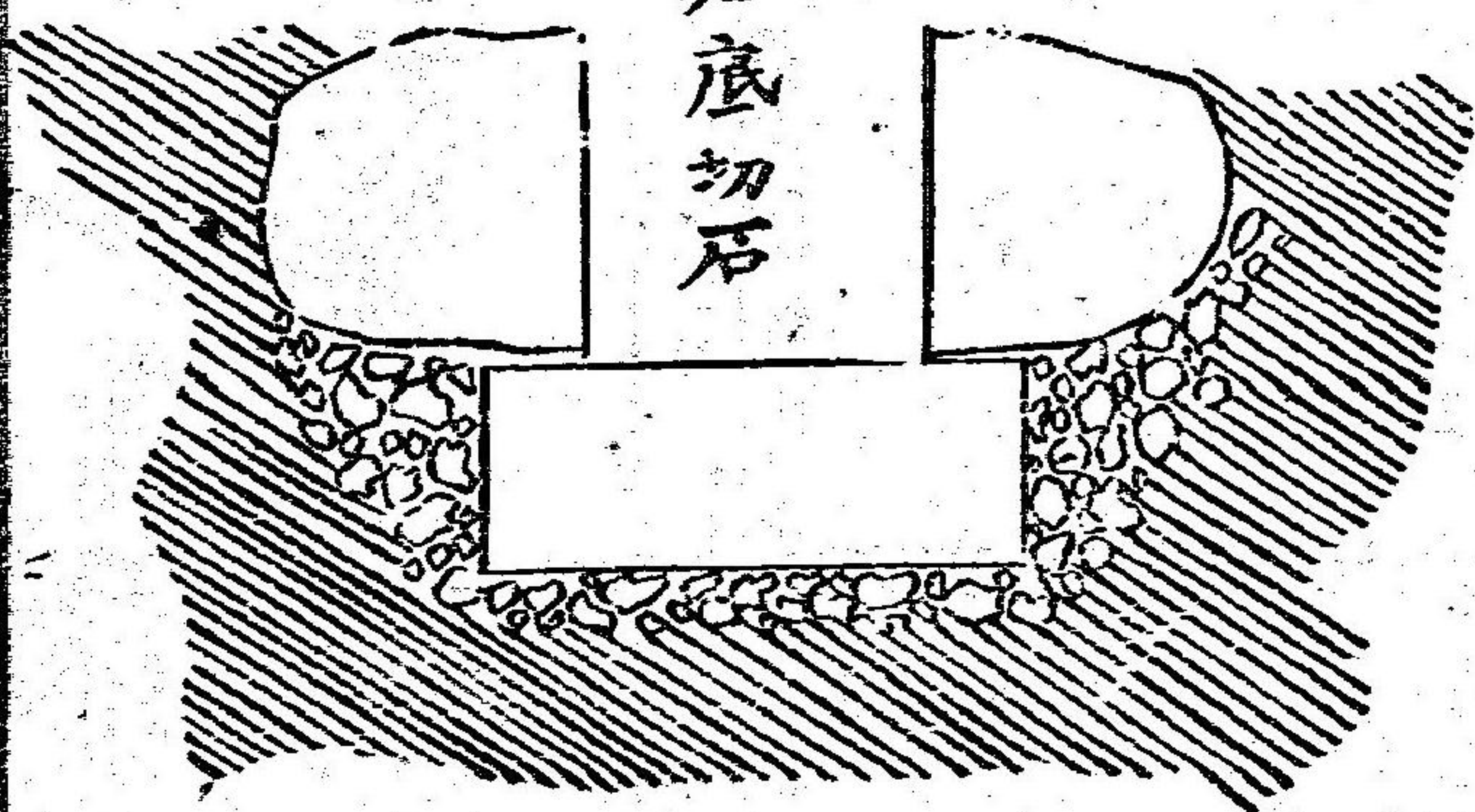


溝渠構造ノ圖

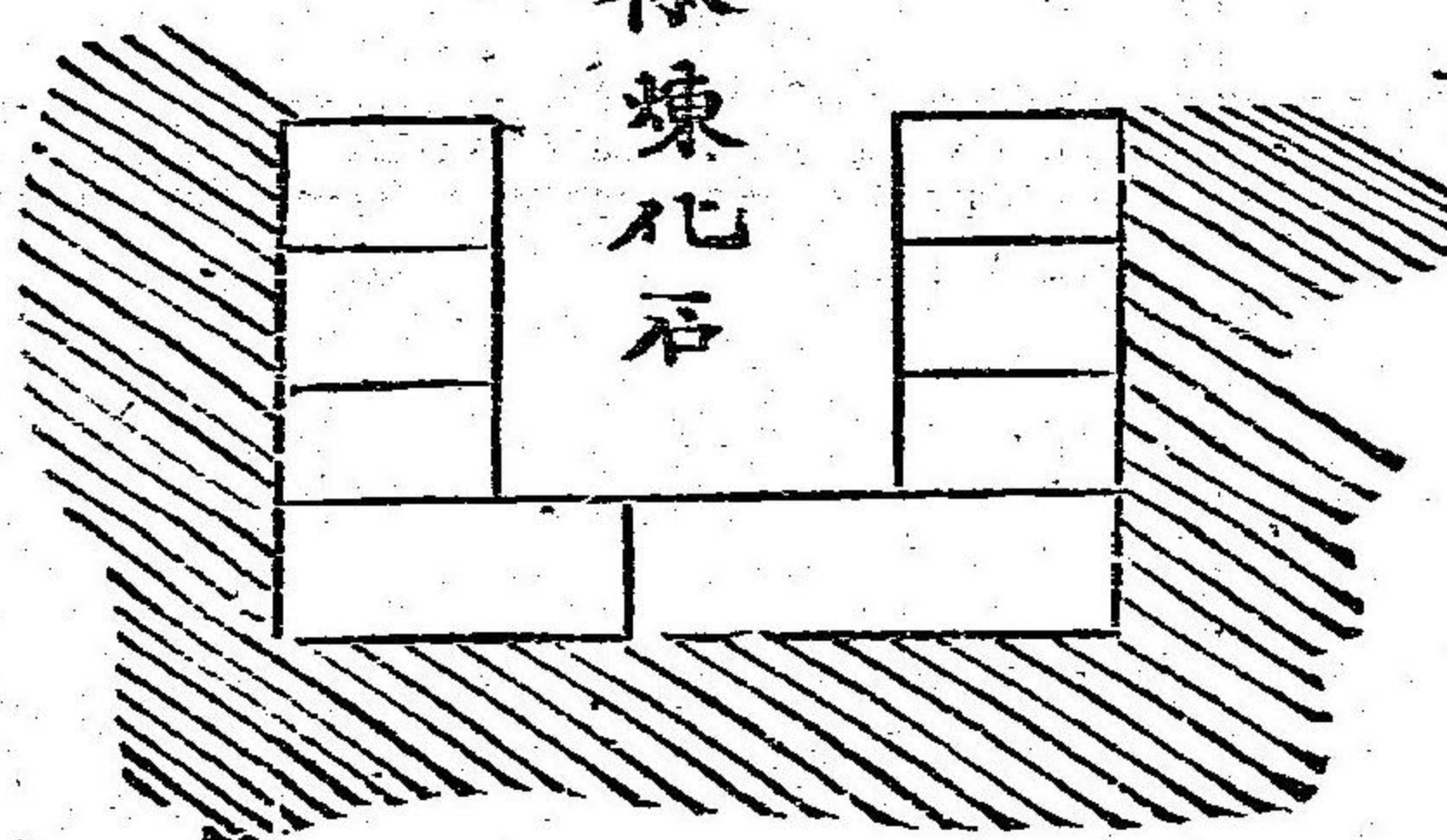
總体切石



兩側割石底切石

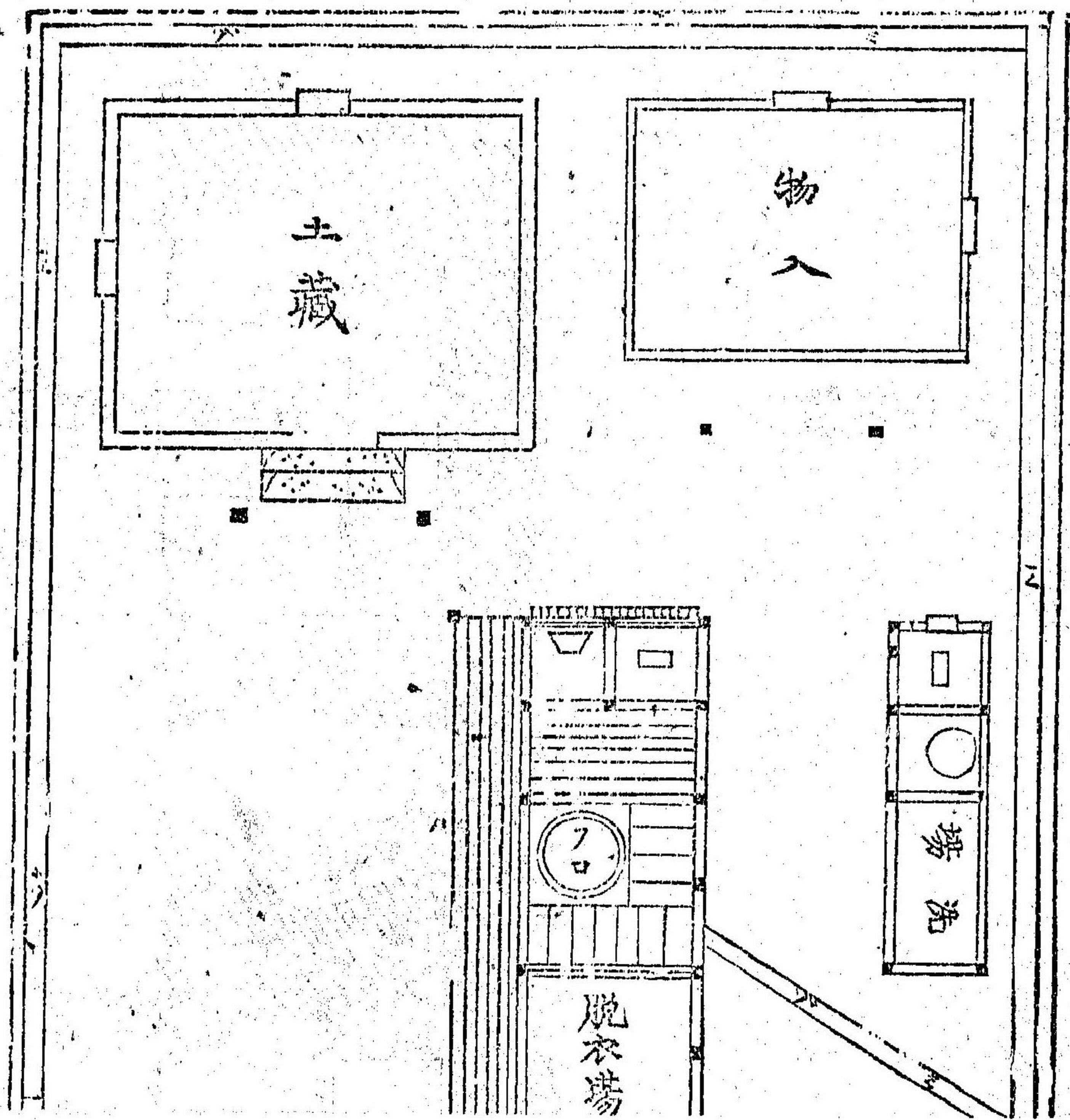


總体煉化石



總体漆喰叩

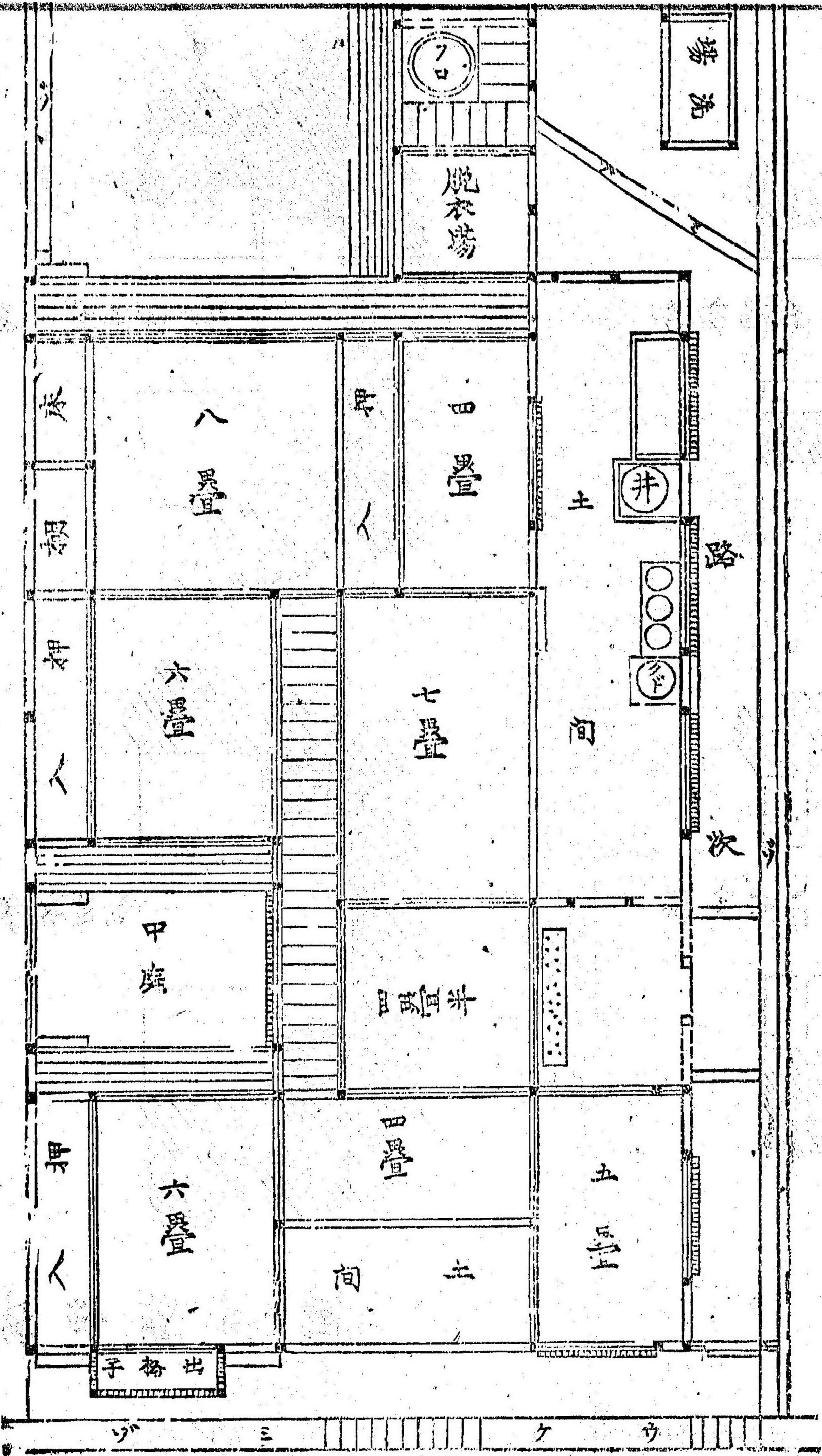


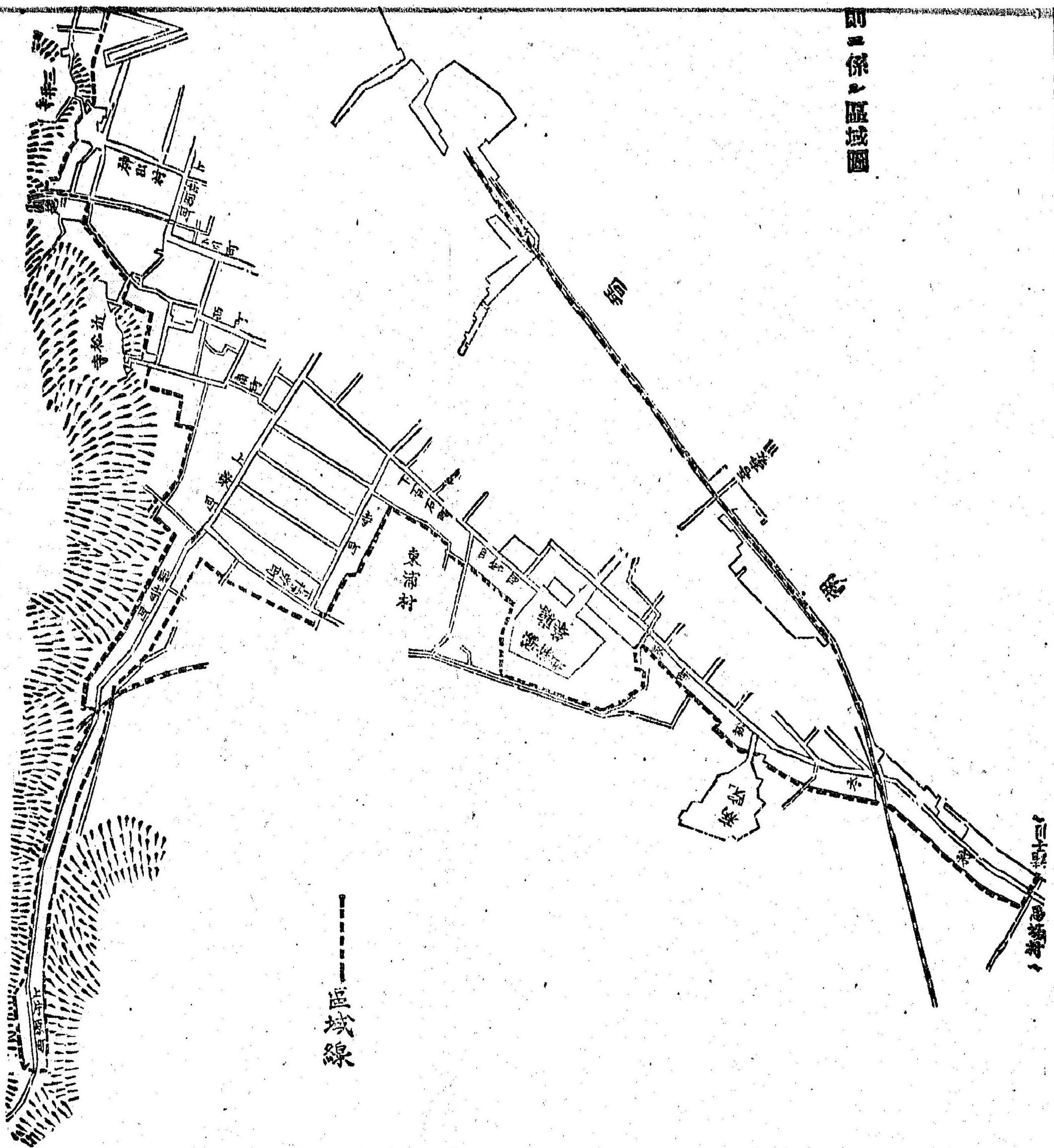


家屋建築ノ圖

壹間六分ノ縮圖

圖
方ノ縮圖





町界線

○縣令第二百六號 明治廿年十月十一日

明治廿年二月 告示第廿二號ヲ以テ家屋建築規則施行區域相定候處滋賀郡東浦村并ニ松本村地
先ニシテ鐵道線路以北ニ於テ家屋又ハ附屬家倉庫等ヲ建設シ若クハ井戸ヲ新鑿シ又ハ之レ
等ノモノヲ改造セントスルトキハ家屋建築規則ニ從フヘシ

○縣令第百廿七號 明治廿一年七月廿七日

演劇其他寄席等ヲ設ケ營業スル爲メ一時一屋掛ヲナスモノモ明治十九年縣令第五十二號家
屋建築施行區域内ニ於テハ該規則第十條ニ依ルヘシ

○受溝設ケ方及家屋井戸等ニシテ危險ノ恐レアル者取締

○縣令甲第五十三號 明治十九年十二月二十二日

今般家屋建築規則布達候ニ付テハ該規則第六條又ハ第七條ニ抵觸スルモノニシテ既ニ受溝
ノ設ケアル場所ニ於テハ明治二十一年四月中迄ニ又受溝ノ設ケナキ場所ハ明治二十二年四
月中迄ニ受溝開設ト共ニ改造スヘシ

從前建設ノ家屋附屬家及ヒ倉庫又ハ井戸等ニシテ危險ノ恐レアルモノ又ハ健康ニ害アリト
認ルモノハ改造又ハ取潰シテ命シ若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

右第一項ニ違背シ又ハ第二項ノ命令ヲ背セサルモノハ列法第四百二十六條ノ刑ニ處シ尙ホ
行政ノ處分ヲ以テ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

○家屋軒下地検査願出方

○甲第百一號布達 明治十八年七月十三日

明治十七年^九本縣甲第九十六號布達左ノ通更正候條此旨滋賀郡大津市街へ布達候也
大津市街軒下地ハ官有第三種道路敷ナレ^レ以テ家屋牆壁軒楹等ヲ出スコトハ不成等ニ
付一時取拂ヲ命スヘキノ處特別ノ詮議ヲ以テ在來ノ分ニ限リ其儘差許候得共今後家屋ヲ建
換又ハ修繕ヲ爲シタル時ハ必ス私有地外へ家屋ハ勿論牆壁軒楹等ト雖モ出サル、模致スヘ
シ尤モ今後家屋ヲ建換又ハ修繕ヲ爲ス時ハ其着手前明細圖面ヲ以テ郡役所ヲ經由^リ本縣廳
へ申出検査ヲ受クヘシ若検査ヲ受ケス自儘ニ私有地外へ家屋牆壁軒楹等ヲ出シタル者ハ違
警罪ノ處分ニ付^ル猶其家屋牆壁軒楹等ノ取拂ヲ命スヘシ
但小破修繕ニ止ルモノハ本文ノ限リニ非ス且改良濟ノ家屋ト雖モ一町全体ノ改良ニ至ル
マテハ特別ノ詮議ヲ以テ從來ノ軒下地へ庇ヲ張出スコトヲ差許候ニ付詳細ナル圖面ヲ添
へ別ニ本縣廳へ願出ヘシ

○縣第六十四號 明治二十年二月九日

明治十八年本縣甲第百一號布達家屋軒下地検査ノ義ハ大津警察署ニ於テ取扱ハシタルヲ以
テ自今該廳書ハ同署へ差出スヘシ

○街路取締規則

○街路取締規則

○縣令第三百三號 明治二十年三月三十日

街路取締規則別冊ノ通相定メ奉五月一日ヨリ施行ス

(別冊)

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及ヒ道敷ニ沿テ下水並ニ橋梁ヲ云フ

但下水ノ設ケヤ塙所ハ家屋根石際ヨリ二尺五寸ヲ以テ之ヲ下水際ト見做可シ

第二條 本則ハ大津彦根長濱八幡ノ市街及ヒ其接續村ニ施行ス

但第二章第六條第七條第八條第九條第十一條第十二條第十六條第十八條第二十三條第

二十六條第四十條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第

四十九條第五十條第五十三條第五十八條ハ日野町八日市町並ニ其接續村及ヒ國道縣道

ニモ亦之ヲ施行ス(二十二年縣令第九十四號ヲ以テ五十八條ハノ下日野町以下及ヒマナノ十五字追加)

第三條 本則ニ依リ自費ヲ以テ爲ヌ可キ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徵收ヌ可シ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒柱旗柱招牌物子ヲ設ケ或ハ出ス可カラズ

第五條 左ノ諸件ハ街路ニ出ヌコトヲ得可キモノトス
但實地妨害又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ位置ヲ變更セシメ又ハ撤却ヲ命ヌルコト
アルヘシ

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二 日除ハ(綿布類ヲ用ヒ)支柱ヲ用ヒシ地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

三 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第六條 左ノ諸件ハ其塙ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出允許ヲ受シ可シ(二十二年縣令第二十九號ヲ改正)

一 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈或ハ街廁ヲ建設スル事

二 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建ツル事

三 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事

四 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

五 道路ニ沿ヒ風雨又ハ雪除ヲ設ケル事

六 街路ニ床店護賢張ヲ設ケル事

七 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事

八 街路ニ目録土置場ヲ設ケル事

- 九 工事ノ爲ノ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 十 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞ス可キ長大ノ物件或ハ牛馬二頭以上又ハ輓夫四人以上ヲ要スル重量ノ物件ヲ運搬スル事
- 十一 一時街路ニ舞臺神佛祭典法小屋掛市草市及店飾ヲ設ケル事
- 十二 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出スル事
- 十三 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
但牛車通行ヲ禁止セサル道路ハ許可ヲ受ルノ限ニアラス
- 十四 車馬通行停止ノ傍示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
- 十五 第五條第二項以外ノ日除ク設ケル事
- 十六 街路ニ沿フタル土地へ家屋ヲ新築又ハ改造スル事
但許可ヲ受タル者ハ離形ニ準シ其戶外又ハ板圍等へ願濟ノ標札ヲ釘付ス可シ
- 第七條 神佛祭典法會緣日等ニテ一時路傍ニ出店ヲ爲スモノ三尺以内ハ特ニ出願ニ及ハスト雖モ其店跡ハ清潔ニ掃除ヲ爲シ置クヘシ
但街路狹隘ニシテ通行ノ障害アリト認ムルトキハ取除キ命スル事アル可シ
- 第八條 第二章第六條第十項ニ係ル重量物件ヲ運搬セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署

- ニ於テ標旗ヲ借用シ之ヲ見易キ个所へ附置シ可シ
- 但運搬濟之上ハ借用セシ警察署又ハ分署へ速カニ返納ス可シ
- 第九條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直チニ原形ニ復ス可シ
- 第十條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及ヒ堅樋ヲ設ケ可シ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設ケル事ヲ得ス
但檐溜ノ下地ニ落ルモノハ此限リコアラズ
- 第十一條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ其道敷ト宅地ト境界溝渠等ナク判明セサルモノハ適宜其境界ヲ取設ケ可シ
- 第十二條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置者ハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又ハ薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ傾仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲ス可シ
- 第十三條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞傾仆ノ虞アル者ハ速カニ修理若シハ扶植伐採ス可シ
- 第十四條 街路ニ竹木土石類ヲ置ク者ハ標識ヲ設ケル事
- 第十五條 運搬中ノ建物若シハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲ク可シ
- 第十六條 街路及ヒ路傍ノ井戸ハ高サ二尺以上ノ井筒ヲ設ケ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆フ可シ

第十七條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損塞壅シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅ス可カ

ラス

第十八條 制札指道標便所及ヒ牆壁等ニ汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲ス可カラス

第十九條 街路ニ商品薪炭其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置ク可カラス

第二十條 街路ニ於テ荷造木挽又ハ其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシム可カラス

第二十一條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲ス可カラス

第二十二條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若シハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥ス可カラス

第二十三條 街路ノ面側ニ相對シテ牛馬ヲ繫キ又ハ荷車ヲ置クヘカラス

(二十三年縣令第三十三號ヲ以テ改正)

第二十四條 街路ニ於テハ指定シタル區域ノ外露店又ハ屋臺店小屋掛等ヲ爲シ又ハ出ス可

カラス

第二十五條 行商ニ用ニル荷車ハ長サ九尺幅三尺屋臺店ハ長サ六尺幅三尺ヲ超過ス可ラス

第二十六條 奇異ノ行裝戲弄ノ言行ヲ爲シ街路ヲ徘徊ス可カラス

第三章 街路ノ清潔

第二十七條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ散ス可カラス

第二十八條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除シ同八時後日没迄ノ降雪ハ降歇後直チニ掃除

ス可シ

但大雪或ハ降續キ等ニテ一時掃除シ能ハサルトキハ往來ノ通路各家ノ出入等ニ妨ケナ
カラシムル標注意ス可シ

第二十九條 掃除シタル雪ハ河又ハ下水其他妨害トナラサル場所ヘ投棄ス可シ

第三十條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ灑ク可シ

但風日ト雖モ十二月ヨリ二月迄ハ午前九時午後三時後ハ水ヲ灑ク可カラス

第三十一條 街路ノ瀝水及ヒ掃除積雪取除ハ左ノ各項ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ

- 一 人家兩側ニ在リ時ハ其戸前地先ノ中央ヨリ區分シ各居住者若シ空屋空地ナルトキハ各其所有主之レヲ分擔シ片側ニ在ルトキハ其全部ヲ負擔スヘシ
- 二 橋梁其他負擔者ナキ場所ハ接續町村ニ於テ適宜區域ヲ定メ負擔ス可シ

第三十二條 汚水ヲ街路ニ灑注ス可カラス

第三十三條 下水ハ毎年二回以上浚渫シ所轄警察署ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ其浚ヒ揚ケタ

ル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置シ可カラス

第三十四條 街路又ハ街路ニ沿フタル場所ニ惡臭ヲ發スル肥糞類ヲ乾曝スヘカラス

第三十五條 街路ニ於テ無蓋ノ器物ヲ用ヒ糞尿ヲ運搬シ又ハ糞尿ヲ移替ニヘカラス

第三十六條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十七條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十八條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス
 第三十九條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ襤褸其他見苦敷ク若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第四十條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス
 第四十一條 牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス

但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限コアラズ

第四十二條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第四十三條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第四十四條 牛馬諸車ヲ並ヘ軌キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十五條 車二輛以上ヲ連繫シテ軌シヘカラス

但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニララス

第四十六條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限コアラズ

第四十七條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十八條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十九條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ク後車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十條 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送其他公式ノ行例等ニ行逢フキハ避讓スヘシ

第五十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及ヒ街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第五十二條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第五十三條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ置クヘカラス

第五十四條 制止ヲ肯ンセスレテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十五條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十六條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ軌キテ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十七條 電信又ハ傳訊線ノ設ケテ街路ニ於テ紙薦ヲ飛揚ス可カラス

第五十八條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スヘカラス

但神祭法會等ノ際別ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニマラス

第五章 罰則

第五十九條 本則第四條第六條第八條第十條第十二條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條

○街路取締規則

條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條
第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條
第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七
條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條
第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條
第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條
第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條
第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條
第九十八條第九十九條第一百條

但刑法ニ正條アル者ハ其本法ニ從フ

附則

一本則第十一條街路ニ沿ヒタル宅地ニシテ其宅地ト路敷トノ境界溝渠ナク判明セサル者ハ
本則施行ノ日ヨリ六箇月以内境界ヲ取設クヘシ

一本則第廿五條荷車及ヒ屋臺店ノ制限ニ觸ル者ト雖モ本則施行ノ日ヨリ六ヶ月以内ハ之
ヲ使用スルコトヲ得

第六條第十六項ノ標札離形



寸法木質適宜

(參考)

○建第百二十八號 明治廿二年十二月十七日

郡 役 所
町 村 役 場

町村費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁等小破海堤下水ノ道路ニ溢流シ又ハ道路ノ一部ニ凹所ヲ生シ或ハ石橋ノ爲
等ノ轉落シタル等二三人ノ人夫ヲ以テ繕ヒ得ヘキモノヲ云フ
ノ通行危險ノ恐レアルトキハ即時其危險ヲ防シ足ルヘキ修繕ヲ爲スヘシ若シ小破アルコ
トヲ警察官ヨリ告知ヲ受ケ三日以内取繕ヒテ爲サ、ルトキハ警察署又ハ分署ニ於テ直チニ
修繕ヲ加ヘシムヘキニ付其費用ハ該管理者ヨリ支辨スヘシ

○乗合馬車營業取締規則

○縣令第百五十九號 明治廿年七月廿二日

乘合馬車營業取締規則別冊ノ通創定シ來ル八月一日ヨリ施行ス

(別冊)

乘合馬車營業取締規則

第一章 通則

第一條 乘合馬車營業トハ馬車ニ馱者馬丁ヲ付シ入テ乘載運轉シ營業スルモノヲ云フ
第二條 營業ニ關スル願届ハ總テ所轄警察署ヘ差出スヘシ

○乘合馬車營業取締規則

但分署所轄内ニ係ル者ノ願届ハ都テ該分署ヲ經由スヘシ(二十二年縣令第二十
九號ヲ以テ但書追加)

第三條 第一條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其往復スヘキ線路ヲ詳記シタル願書里道ニ係ルトキ
ハ該道路修繕ヲ
負擔スル町村長
ノ承諾書ヲ要スニ駐車場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經由シ縣廳ヘ出願免許ヲ受クヘシ(二十三
年縣令
第十五號ヲ
以テ改正)

但線路及駐車場ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第四條 營業者ハ馭者馬丁ノ住所身分氏名年齢及ヒ第三章第二十七條ニ觸レサルコトヲ詳
記シ且馭者ハ馭術修行ノ履歷ヲ添ヘ届出一人毎トニ鑑札ヲ受クヘシ

第五條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第六條 車馬ヲ買受讓受又ハ車体ヲ新造改造等シタルトキハ使用以前車体馬力ニ相當シタ
ル乗客ノ定員馬匹ノ産所身材年齢及ヒ毛色交リ毛アレハ
其毛色トモ等ヲ詳記シ願出検査ヲ受ケ車馬檢
査証ヲ受クヘシ

第七條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回月各自ニ所轄警察署又ハ分署ニ持參シ検査ヲ受ケ鑑札
ニ捺印ヲ受クヘシ其捺印ヲ受サルモノハ無効ナルヘシ(二十二
年縣令第二十九號ヲ
以テ又ハ分署ノ四字ヲ挿入)

第八條 車体及馬匹ハ毎年二回二月所轄警察署又ハ分署ニ於テ検査ヲ受ケ検査証ニ捺印ヲ
受クヘシ其捺印ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ(上全)

第九條 左ノ場合ニ於テハ直チニ届出車馬検査証又ハ鑑札ノ書替若シハ再渡ヲ乞フヘシ

一 轉居改氏名其他検査證及鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 検査證又ハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニナリタル時

第十條 検査證又ハ鑑札ニ捺印ヲ押スヘキ場所ノ盡キタルトキハ其次期捺印ヲ受クル際書
替ヲ請フヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ直チニ届出車馬検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業シ又ハ營業免許ノ効ヲ失シ若シハ他ノ警察署部内ニ轉居セントスル時

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ其使用ヲ廢シタルトキ

三 馭者馬丁ノ解雇死去失踪逃亡又ハ第三章第二十七條ニ觸レ其業務ニ從事スルコトヲ
得サル時

第十二條 検査證及ヒ鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十三條 馬車ヲ運轉スルコトハ馭者馬丁ヲ欠クヘカラス

第十四條 乗客定員及ヒ賃錢票并ニ車体検査證ハ車体内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第十五條 馬匹検査證ハ其頸輪ニ結着スヘシ

第十六條 検査證アル車馬ト雖モ第二章第二十四條第二十五條ノ制限ニ適セス又ハ其車体
附屬品ノ破損若シハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止
ムコトアルヘシ

第十七條 (明治二十三年四月縣令第四十一號ヲ以テ刪除)

第十八條 (全上)

第十九條 (全上)

第二十條 (全上)

第二十一條 (全上)

第二十二條 (廿四年一月縣令第十號ヲ以テ刪除)

第二十三條 他管下ノ營業馬車ニシテ本縣下ヘ定期往復セントスル者ハ本縣下ニ係ル線路

並ニ駐車場等ヲ詳記シ本則第二條第三條ニ準據出願免許ヲ受ケ就業中ハ本則第十三條及

ヒ第四章第五章ノ各條並ニ第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ヲ適用

スヘシ

但一時本縣下ヘ到着又ハ通過スルモノト雖モ本則第十三條及第四章第五章ノ各條並ニ

第五十八條ハ之ヲ適用ス尤モ本縣下甲乙地ヲ往復スルコトヲ許サズ

第二章 車体馬匹及器具

第二十四條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及ヒ附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二 車体ハ黑色ノ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製タルヘシ

三 客座ハ左右又ハ前後ニ腰掛ケテ設ケ乗客一人ノ座席ハ一尺一寸以上タルヘシ

四 客室ノ腰掛ケコハ不潔ナラサル柔ラカキ敷物ヲ備フヘシ

五 日晷ハ白ノ綿布類雨覆ハゴム引又ハ桐油製ニシテ不潔ナラサル者ヲ備フヘシ

六 車体ノ外部ニ出タル車輪ニハ車体ト同色ノ泥除ヲ設クヘシ

七 車体前面ノ左右ニハ紅色ノ硝子燈各一個ヲ備フヘシ

八 運轉器心棒發條力革手綱其他ノ屬具ハ堅牢強靱ニシテ且不潔ナラサルモノヲ用ユヘシ

第二十五條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及ヒ服裝

第二十六條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上コシテ身体ノ強壯ナルモノ且馭者ハ

馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第二十七條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜強姦及過失

ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者

亦同シ

第二十八條 營業中前條ニ觸レタルトキハ其業務ニ從事スルコトヲ得ス

第二十九條 馭者馬丁ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

○乗合馬車營業取締規則

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

三五 郵便又ハ消防用ニ供スル車馬又ハ葬送其他公式ノ行列ニ行進フトキハ避讓スヘシ
第四十六條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ十間以上ノ距離ヲ取リ互ニ號走スヘカラス

但乗客昇降ノ爲メ一時停車スルトキハ三間以上ノ距離ヲ取ルヘシ

第四十七條 往復雜沓又ハ隘狭ノ場所及ヒ街角橋上ニ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁チンヲ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十八條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第四十九條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第五十條 夜中燈火ナシテ行車スヘカラス

第五十一條 車体馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第五十二條 定員三分ノ一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ミ又ハ駐車場ハアラサル場所ニテ濫リテ停車スヘカラス尤モ駐車場ト雖モ馬匹繼立相當ノ仕度ヲ爲シケル上ハ速ニ發車スヘシ

第五十三條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ヲキヤニ注意シ之レアルトキハ直ニ還付シ其主分明

ナラザルトキハ即時最寄警察署分署又ハ巡查駐在所へ届出ヘシ (二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正) 巡查ノ下派出所トアルヲ駐在所

第五十四條 不正品ト認ムル物品ノ運搬ヲ求メ又ハ乗客ノ舉動不審ト思慮スルモノアルトキハ本人覺知セサル様注意シ最寄警察署分署又ハ巡查駐在所若シハ巡回警察官吏へ密告スヘシ (全上)

第五章 乗載制限

第五十五條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス

但十年未滿ノモノハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第五十六條 左ニ記載シタルモノハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病、其他乗客ニ於テ厭忌シヘキ病狀アル者
- 一 癡癩者、癡行者、亂醉者、及ヒ乞食体ノ者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
- 四 獸類

第六章 賃錢及ヒ停車場

第五十七條 營業者ハ賃錢ヲ定メ所轄警察署ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ變更セントスルトキ全亦

○乗合馬車營業取締規則

○乘合馬車營業取締規則

第五十八條 何等ノ名義ヲ以テモモ乗客ニ對シテ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス
第五十九條 駐車場ニハ左ノ標識ヲ設クヘシ

明治何年何月何日許可

乘合馬車駐車場

住所 氏名

明治何年何月何日許可

乘合馬車駐車場

住所 氏名

前面

第六十條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第六十一條 駐車場ノ地盤ハ石煉化石敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第六十二條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 罰則

第六十三條 本則第三條第四條第六條第九條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條

第二十三條第二十四條^{第四項}以下^{第四項}第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三

十三條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四

十四條第四十六條第四十八條第五十條第五十一條第五十二條第五十五條第五十六條第五

十八條第六十條第六十一條第六十二條ニ違背シタルモノ及ヒ第三十五條第四十七條ニ違

背シ他ニ妨害ヲ爲シタルモノハ一日以上十日以下ヲ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九

拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法正條アルモノハ其本法ニ從フ

附則

一 從來ノ營業者コシテ引續キ營業セントスル者ハ來ル八月三十一日迄ニ營業願書并ニ

馭者馬丁ノ届書ヲ差出スヘシ

二 從來ノ營業者コシテ引續キ營業セントスル者第二十四條第二項ニ觸ル、モノト雖モ

來ル十二月三十一日迄ハ使用スルコトヲ得又馭者馬丁服裝第二十九條ニ觸ル、モノ

ト雖モ來ル九月三十日迄ハ着用スルコトヲ得

○人力車營業取締規則

○縣令第百八號 明治二十年三月三十日

人力車營業取締規則別冊ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ施行ス

(別冊)

人力車營業取締規則

第一章 通則

第二條 人力車營業トハ車ヲ貸シ又ハ所有車ヲ輓キ或ハ雇人ニ輓カシメ及ヒ借車ヲ輓キ營
業スル者ヲ云フ

○人力車營業取締規則

第二條 營業ニ關スル願届書ハ總テ組合取締人ト連署シ所轄警察署警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタル地ハ該分署ニ提出スルベシ

但第三十八條ノ届ニハ取締人ノ連署ヲ要セス

第三條 貸車營業ヲ爲サントスル者ハ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 人力車輓キ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢ヲ記シ願出鑑札ヲ受ク可シ

但シ雇ハタシテ輓カシメントスルトキモ亦本條ニ準シ雇主ヨリ願出雇人一人毎トニ鑑札ヲ受クヘシ

第五條 鑑札ハ毎年一回二月自ラ所轄警察署又ハ分署ヘ持参シテ檢印ヲ受ク可シ其檢印ヲ受ケサル鑑札ハ無効ナルベシ

第六條 人力車營業出願ノ際又ハ買受讓受若クハ新造改造シタルトキハ檢査ヲ受ケ車毎ニ檢査證ヲ願受クヘシ

第七條 車体ハ毎年二回八月所轄警察署又ハ分署ニ於テ檢査ヲ受ケ檢査證ニ檢印ヲ受ク可シ其檢印ヲ受ケサル車ハ使用スルヲ許サズ

第八條 車体檢査証ハ車ノ蹴込右方ニ貨錢表ハ其左方ニ釘付ス可シ

但貨錢表ニハ取締所ノ烙印ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各項ニ係ルモノハ直チニ所轄警察署警察署直轄ト分署直轄ト各別ニ組合ヲ設ケタル地ハ該分署ヲ經由シニ届出書換又

ハ再渡若シハ返納ス可シ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ制註ヲ加フ)

但組合外へ車ヲ賣渡シ又ハ讓リ渡シタルトキハ車体ニ記載シタル組合及ヒ番號ヲ取消スヘシ

一 轉居改名其他車体檢査証及ヒ鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 車体檢査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニナリタル時

三 車体檢査証及ヒ鑑札ニ檢印ヲ押スヘキ欄ノ尽キタル時

四 廢業廢車又ハ車ヲ賣渡シ若クハ讓渡シタル時

五 輓夫ヲ解僱シ又ハ輓夫ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第十條 車体檢査証及ヒ鑑札ヲ貸與ス可カラズ

第十一條 (明治廿三年四月縣令第四十一號ヲ以テ削除)

第十二條 (全上)

第十三條 (全上)

第十四條 (全上)

第十五條 (明治廿四年一月縣令第十一號ヲ以テ削除)

第十六條 他府縣ノ人力車輓夫客ヲ乘載シテ本縣下ニ到着又ハ通過シ若クハ縣下ニ於テ新ニ客ヲ乘載シ歸程ニ就クハ妨ケナシト雖モ縣下甲乙地ニ往復スルコトヲ許サズ

第十七條 人力車營業者ハ取締人ノ手當並取締所ノ費用ヲ負擔ス可シ

第二章 車体ノ構造及附屬品

第十八條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フ可シ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ同二尺以上トス

二 車体ハ黒無地漆塗中張ハ革天鵝絨羅紗ノ三種ニシテ他物ヲ汚染セサルモノヲ用フ可シ

三 車体ニ同シキ塗色ノ泥除キ備フ

四 車体ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ其組名及番號ヲ判明ニ記スヘシ

五 エム引又ハ桐油製ノ母衣及ヒ前掛ヲ備フヘシ

六 不潔ナラサル滯團及ヒ前掛ヲ備フ可シ

七 組名及番號ヲ記シタル細長提灯及替轄二個以上ヲ備ヘ且蠟燭摺付木ヲ用意スヘシ

第三章 輓夫ノ資格及ヒ服裝

第十九條 輓夫ハ左ノ資格ニ適スル者ニ限ルヘシ

一 年齡十八年以上ノ男子ニシテ身體強壯ナル者

但十八年未滿ト雖モ身體強壯ニシテ相當ノ体力アル者ト認ムルトキハ特ニ免許スル事アルヘシ

二 本縣下ニ在籍又ハ寄留ノ者

三 營業地及ヒ其最寄近傍地方ノ里程ヲ熟知スル者

第二十條 前條ノ資格ニ適合スル者ト雖モ強盜強姦及ヒ幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニ非ラサル殺傷罪或ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者ハ輓夫タルコトヲ得ス又營業免許ヲ得タル後ト雖モ本條ニ觸レタルトキハ其免許ノ効ヲ失フヘシ(二十年六月縣令第百三十六號ヲ以テ本條中又營業以下ノ三十三字追加)

第二十一條 輓夫ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 着服ハ黒紺又ハ淺黃色ノ法被股引

但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

二 冠ヲ物ハ大黒帽子(黒又ハ紺)又ハ饅頭形ノ笠(白又ハ黒紺色ノ綿布或ハ廿三年四月縣令ハ羅紗ヲ製ヒタルモノ)(第四十一號改正)

三 雨具ハエム引又桐油製

第二十二條 法被雨具ニハ組名及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

第四章 輓夫就業制限

第二十三條 輓夫ハ就業中鑑札ヲ携帯シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求ムルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 輓夫就業中ハ頰冠又ハ其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 途中ニ於テ車體毀損シタルトキハ速カニ使用ヲ止メ乘客ヲ降車セシムヘシ

第二十六條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第廿七條 乘客ノ承諾ヲ得ヌ途中ニ於テ他ノ車ニ乗セ換ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

第廿八條 市街天津港根八幡長及ヒ其接續村ニ於テハ駐車場ノ外ニ人力車ヲ置クヘカラス

但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

第廿九條 乘客ノ指定セサル宿屋飲食店又ハ其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第三十條 制止キ肯セヌヲ出火場其他群集セル場所ニ輓入ルヘカラス

第卅一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第卅二條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第卅三條 人力車ノ通行及ヒ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及ヒ歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテ空車ニテ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ニ通過スヘシ

四 郵便用消防用車馬又ハ非送其他公式ノ行列ニ行逢フトキハ避讓ス可シ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避讓ス可シ

第卅四號 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行ス可シ且街角ヲ過ルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左リハ小廻リヲ爲スヘシ

第卅五條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第卅六條 市街天津港根八幡長及ヒ其接續村ニ於テハ夜中燈火ナクシテ車ヲ輓ク可カラス

第卅七條 街角橋上其他往來ノ妨ケトナル可キ場所ニ於テ客ヲ乗降セシムヘカラス

第卅八條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤコ注意シ之レアルトキハ直チニ還付シ其主分明ナラサルトキハ即時最寄警察署又ハ分署巡査駐在所ニ届出ツ可シ(二十二縣令第二十九號ヲ以テ派出所トアルヲ駐在所ト改ム)

第三十九條 不正品ト認ムル物品ノ運搬ヲ求メ又ハ乘客ノ舉動不審ト思料スル者アルトキハ本人ノ覺知セサル儘注意シ最寄警察署分署又ハ巡査駐在所ニ密告スヘシ(上全)

第五章 乘載制限

第四十條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ員外トス

第四十一條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病疥癬癩病患者及ヒ乞食體ノ者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 賃錢及駐車場

第四十二條 賃錢ハ各組合ニ於テ一定ノ所轄警察署警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ經由當廳ノ

認可ヲ受クヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ制註ヲ加フ)

第四十三條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シテ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場街路ニ設ケタルモノニシテ一般輓夫ノ駐車ス可キモノヲ云フ

二 私設駐車場一人又ハ數人ニテ私有地ニ設立シ其專用ニ屬スヘキモノヲ云フ

第四十五條 公設駐車場ハ縣廳ニ於テ之ヲ設ケ標示スヘシ私設駐車場ヲ設ケントスル者ハ

所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ警察署ノ下ヘ又ハ分署ノ四字ヲ加フ)

第四十六條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ公設ノ駐車場ニ置クヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ車ノ側面ヲ街路ニ向ケテ整列シ各車ノ間ニ

距離ヲ取り出車ニ妨ケナカラシムヘシ

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若シハ闕取ヲ以テ出車スヘシ

但客ヨリ特ニ指定セラルトキハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ乗車ヲ求ムルトキハ夜中又ハ風雨等ノ時ト雖モ正當ノ理由ナシレテ出

車ヲ拒ムヘカラス

但暴行者及ヒ看護人ナキ癡癡人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ニハ彫形ニ準シ識標ヲ製シ取締所ノ烙印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ケ夜中

ハ標燈ヲ以テ之ノ代ヲ可シ

第七章 營業組合

第五十一條 營業者ハ所轄警察署分署ノ區畫ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入ラサル者ハ

人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

但組合ハ便宜ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ數區ヲ合併セテ一組トナスコトヲ得

第五十二條 各組合ニハ正副取締人各一名ヲ公撰シ所轄警察署警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ

經由縣廳ノ認可ヲ受クヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ制註ヲ加フ)

第五十三條 組合ニ於テ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ所轄警察署警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ

經由縣廳ノ認可ヲ受クヘシ(全)

一 取締人撰擧法及任期權限

二 取締所ノ位置

三 正副取締人手當及取締所ノ費用豫算并收支方法

四 輓夫備入備止ニ關スル事項

五 組合會ニ關スル事項

○人力車營業取締規則

六 違約者處分方法

七 前各項ノ外營業上必要ノ事項

第五十四條 左ノ各項ニ觸ル者ハ取締人ニ撰擧スルコトヲ得ス

一 年齡二十五年未滿又ハ組合區域内ニ相當ノ土地家屋ヲ所有セサル者

二 人力車五輛以上所有セル者

但其際五輛以上ノ車ヲ所有スル者アラサレトキハ一輛以上所有者中ヨリ之ヲ撰擧スルコトヲ得

三 營業上ニ關スル諸規則額ヲ解讀シ得ス又ハ算盤ヲ爲シ能ハサル者

四 民事上身分限リノ處分ヲ受ケ未タ其辨償ノ義務ヲ果サレ者

第五十五條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ヌ其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十六條 取締人ニ於テ取扱フ可キ事項左ノ如シ

一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合内營業者ヘ通告スル事

二 私設駐車場ノ標識及ヒ賃錢表ニ烙印スル事

三 組合營業者ノ願屆ニ連署スル事

四 營業者輓夫ノ名簿及車體番號簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除整理スル事

五 組合ニ關スル費用ノ收支及ヒ決算ヲ營業者ニ報告スル事

六 取締人撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

七 右之外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十七條 正副取締人任期中ト雖モ不都合ノ所爲等アリテ不適任ト認ムルトキハ臨時改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第八章 罰則

第五十八條 本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十六條第

十八條^{第三項}第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十

七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第三十

六條第三十七條第四十條第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十七條第四十

八條第四十九條第五十條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上

壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ

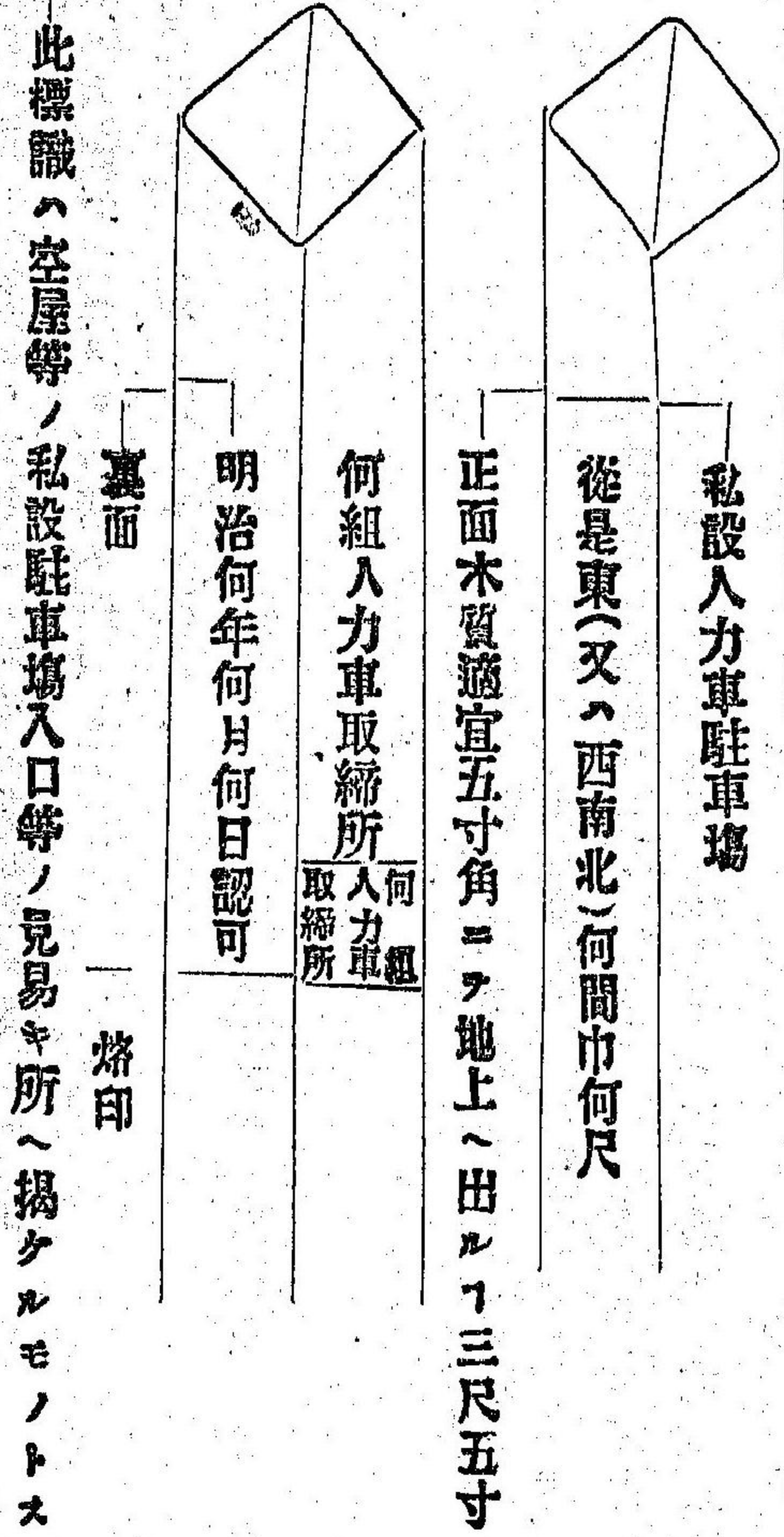
附則

一 從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出鑑札并ニ車體檢査證ヲ受シヘシ

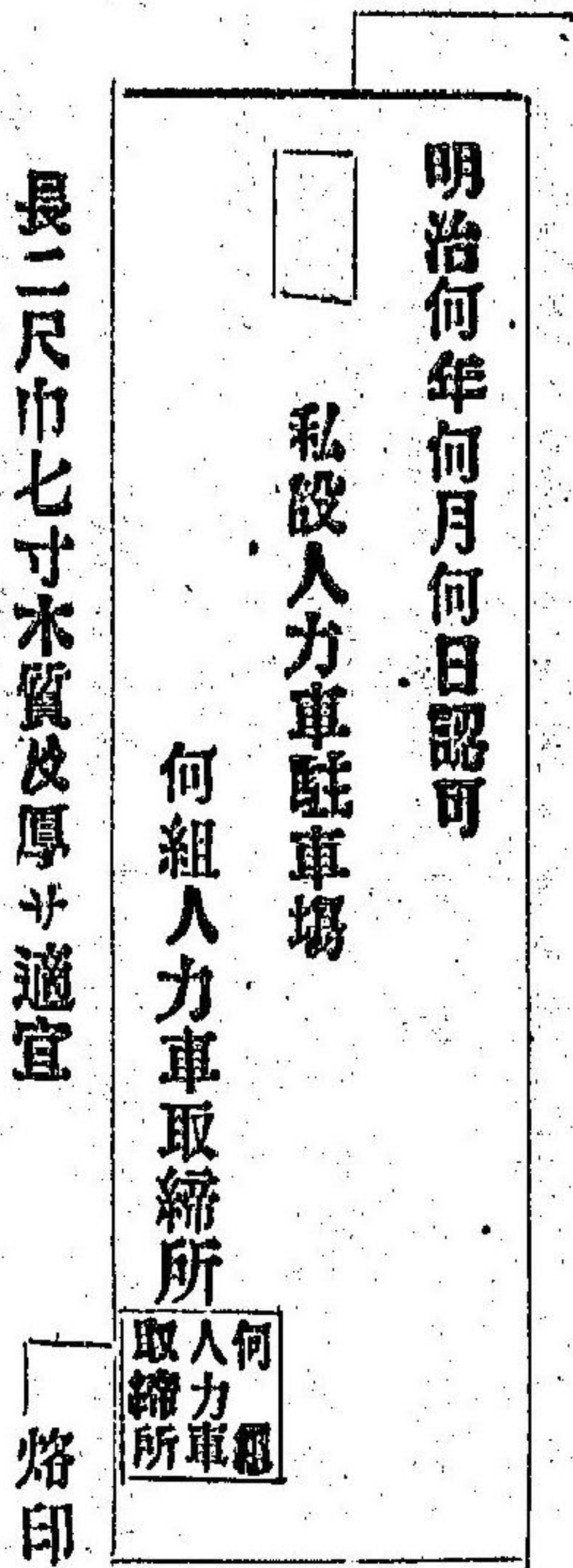
○人力車營業取締規則

○人力車營業取締規則

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ
 一從來ノ人力車ニシテ引續キ營業セントスル者第十八條第一項乃至第四項ニ抵觸スルモノ
 一雖モ本則施行ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ使用スルコトヲ得
 一從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セントスルモノ第二十一條曉夫ノ服裝制限ニ抵觸スルモノ
 一ト雖モ本則施行ノ日ヨリ三ヶ月以内ハ營業スルコトヲ得
 官(私)有地等空地ニ私設スル駐車場ノ標識離形



此標識ハ空屋等ノ私設駐車場入口等ノ見易キ所ニ掲ケルモノトス



長二尺巾七寸木質及厚サ適宜

(參考)

○縣令第百十六號 明治二十年四月八日
 來ル五月一日以後人力車ノ先曉キヲナサントスルモノハ縣令第百八號ノ人力車營業取締規則第二十一條ニ準據シタル服裝ヲ爲シタルモノモアラサレハ之ヲ爲スコトヲ禁ス

○宿屋取締規則

○縣令第百九號 明治二十年三月三十日
 宿屋取締規則別冊ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ施行ス
 (別冊)
 宿屋取締規則

○宿屋營業取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業上ニ關スル願書ハ總テ組合取締人ト連署シ所轄警察署 警察署直轄ト分署所
カタル地ニ差出スヘシ(二十年縣令第二十九號ヲ以テ訂正加フ)

但第五條第八條第十條第十八條第三十五條第三十九條第四十一條ノ諸届ニハ取締人ノ

連署ヲ要セス

第三條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類並ニ族籍住所氏名年齢ヲ記シタル書面ニ客室
用ノ建物坪數及ヒ間取ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ願出免許ヲ請フヘシ

但新築又ハ修繕ニ係ルモノハ落成期日ヲ豫定シ願書ヘ付記スヘシ

第四條 木賃宿營業ハ一定ノ場所ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

但其場所ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 允許ヲ得タル宿屋ニシテ其間取坪數ヲ増減變更セントスルトキハ圖面ヲ添ヘ届出
ヲ認可ヲ受クヘシ

第六條 營業者退隱又ハ死亡等シタルトキ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ其營業相續者ニ
於テ三十日以内ニ願出允許ヲ請フヘシ

第七條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨届出ツヘシ

第八條 客室ノ新築模換又ハ修繕落成シタルトキハ届出テ検査ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各項ニ觸ル者ハ允許ヲ與ヘス又營業免許ヲ得タル後ト雖モ第二項ニ觸ルヲ

トキハ其免許ノ効ヲ失フヘシ(二十年縣令第三百三十六號ヲ以テ本
條中又營業以下ノ三十三字追加)

一 白痴瘋癲又ハ未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 強盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

三 風俗ヲ紊ル可キ所爲アリト認ムル者

第十條 允許ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ開業セス又ハ新築ニ係ルモノニシテ豫定期日內

ニ落成セザルトキハ其事由ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十一條 營業者ニ於テハ第九條ノ二項ニ觸ル者ヲシテ營業ニ關預セシムルコトヲ得ス

第十二條 宿屋ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之レニ代フヘシ

第十三條 宿引ヲ出シ又ハ他人ト副合客ヲ誘引スヘカラス

第十四條 宿泊人ノ許諾ナシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ室内ヘ入ラシム可カラス

第十五條 賭博或ハ賣淫ニ類スル所業ハ勿論宿泊人ノ依囑ヨリト雖モ娼妓又ハ酌取女等

ヲ招聘スヘカラス

第十六條 午後十二時ヲ過キ放歌喧噪等他客ノ安眠ヲ妨クルノ事ヲ爲サシムヘカラス

第十七條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等其求メニ應ジ懇切ニ取扱フ可シ

第十八條 宿泊人變死ニ罹リ又ハ急病ニテ醫師ノ治療ヲ受ケル猶豫ナク死亡シタルトキ或ハ所持品ヲ紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查駐在所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ツヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ巡查派出所ノ五字ヲ削リ居住所トアルヲ駐在所ト改ム)

第十九條 宿泊料ノ抵償トシテ私壇ニ宿泊人ノ所有物ヲ受領スヘカラス

第二十條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ豫メ承認ヲ求メスシテ不相當ノ宿泊料ヲ要求シ或ハ其求メコソアラサル酒食ヲ供シ又ハ強ユヘカラス(廿三年八月縣令第七十五號ヲ以テ改正)

第二十一條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル要件ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第二十二條 警察官吏ハ臨時宿泊人ヲ調査スルコトアルヘシ

第二章 營業組合

第二十三條 營業者ハ所轄警察署分署ノ區畫ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入ラサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

但組合ハ便宜ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ數區ヲ合併シテ一組トナスコトヲ得

第二十四條 營業者ハ組合中ヨリ正副取締人各一名ヲ公撰シ且組合申合規約ヲ定メ所轄警察署(警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ別シテ經由ノ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ)(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ制註ヲ加フ)

但正副取締人其任ニ適セスト認ムルトキハ臨時改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第廿五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 營業上ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ニ告示スル事

二 組合營業者ノ願屆書ニ連署スル事

三 營業者ノ名簿ヲ製シ異動増減ヲ整理加除スル事

四 組合ニ關スル經費ノ收支及ヒ決算ヲ報告スル事

五 取締人撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

六 前各項ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第廿六條 營業者ハ其組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其收支方法ハ規約ヲ以テ定ムル者トス

第廿七條 組合規約ニ掲ク可キ事項左ノ如シ

一 取締人撰擧法及ヒ任期權限

二 取締所ノ位置

三 組合會議ニ關スル規約

四 取締人手當及ヒ組合ニ關スル費用ノ豫算收支方法

五 違約者處分方法

六 前各項ノ外營業上必要ノ事項

第廿八條 左ノ各項ニ觸ル者ハ正副取締人ニ撰擧スルコトヲ得ス

- 一 年齡二十五年未滿又ハ組合區域内ニ相當ノ土地家屋ヲ所有セサル者
- 二 營業上ニ關スル諸規則額ヲ解讀シ得ヌ又ハ筆算ヲ爲シ能ハサル者
- 三 民事上身分限ノ處分ヲ受ケ未ク其辨償ノ義務ヲ果サ、ル者

第三章 旅人宿

第廿九條 旅人宿ハ十坪以上ノ客室ヲ有スル家屋ニ於テ營業ヲスルモノニ限ルヘシ
但シ僻陬ノ村落ニ於テハ土地又ハ家屋ノ規模ニ由リ本條及ヒ第三十條各項ノ制限ニ拘
ハラス特ニ營業ヲ允許スルコトアルヘシ

第三十條 客室ノ構造ハ左項ニ從フヘシ

- 一 客室毎ニ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設ケル事
- 二 二階以上ノ客室十坪以上アルモノハ幅三尺ニ下ラサル階子二個以上ヲ設ケル事
- 三 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ空氣ノ流通ヲ便ニスル事
- 四 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル箇所ニ設ケ尿尿容器ハ陶器製ヲ用ヒ且其部分ハ石敲キ
ニスル事

但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第卅一條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第卅二條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス

但同行者ハ此限ニアラス

第卅三條 正當ノ事由ナクシテ旅客ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第卅四條 宿泊人ヨリ荷物ノ送届又ハ積入等ノ委託ヲ受ケ之レカ周旋ヲ爲スハ固ヨリ差支
ナシト雖モ運送營業ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヘカラス

第卅五條 宿泊人ノ發着ハ書式ニ準シ毎日午後十二時迄ニ同十二時後ノ分ハ翌日午前九時
迄ニ所轄警察署分署又ハ巡查駐在所ニ差出スヘシ(廿二年關令第廿九號ヲ以テ派出
所以下十六字ヲ駐在所ト改ム)

但別ニ名簿ヲ製シ宿泊人發着等書式ニ準シ記入シ該名簿ハ一ケ年間保存スヘシ

第四章 下宿屋

第卅六條 下宿屋トハ一ケ月賄料若クハ座敷料等約定シテ他人ヲ寄寓セシムモノヲ云フ

第卅七條 下宿屋ハ五坪以上客室アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第卅八條 本則第三十條ノ各項ハ下宿屋ニモ亦之ヲ適用ス

第卅九條 下宿屋ハ下宿人投宿後廿四時間内ニ其下宿人ト連署シ下宿人ノ族籍住所職業氏
名年齢及ヒ下宿ノ事由ヲ記シテ届書正副二通ヲ所轄警察署分署又ハ巡查駐在所ニ差出
シ其一通ハ受理シタル官吏ノ捺印ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ(廿二年關令第廿九號
ニ以テ改正則除)

第四十條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シテ木札ヲ店頭又ハ門戸ニ揭示スヘシ

第四十一條 下宿人他ニ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其行先不分明ナルトキハ所轄警察署

○宿屋營業取締規則

分署又ハ巡查駐在所へ届出ツヘシ(廿二年縣令第廿九號ヲ以テ改訂)

第五章 木賃宿

第四十二條 宿泊人獲着届出方等ハ第三十五條ノ例ニ從フヘシ

第四十三條 宿泊人滯在中外泊シタルトキハ詳細其事由ヲ名簿ニ記載シ置ク可シ

第六章 罰則

第四十四條 本則第三條第五條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第卅一條第卅二條第卅三條第卅四條第卅五條第卅九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一本則ニ該當スル從來ノ宿屋及ヒ下宿屋ニシテ引續キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ニ依リ出願免許ヲ請フヘシ

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰舉シ認可ヲ受クヘシ

一客室ノ構造第三十條ニ觸ルモノト雖モ本則施行ノ日ヨリ六ヶ月以内ハ營業スルコトヲ得

一客室ノ坪數第二十九條及第三十七條ニ觸ル者ト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ヶ年以内ハ營業

業スルヲ得

一一定ノ場所外ニアル木賃宿ト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ヶ年以内ハ營業スルヲ得

此名簿ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日マデノ分ヲ管册又ハ數册トナシ毎年之ヲ改正シ前年分ハ滿堂々年間之ヲ保存スルモノトシ用紙寸法適宜

明治何年一月ヨリ

宿 泊 人 獲 着 名 簿

滋賀縣近江國何郡何町村何番地

何屋屋號アルモノハ 何 某
其屋號ヲ掲フ

宿泊人番號	第何號
投宿月日時	明治何年何月何日午前(後)第何時
前夜宿泊所	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々)
出立月日時	明治何年何月何日午前(後)第何時
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々)

○宿屋營業取締規則

相貌ノ別徴	額上ニ何寸許ノ刀傷痕アリ(又ハ何々)
住 所	何府縣何國何郡區何町村何番地
身 分	華士族平民(又ハ神官僧侶等ノ別)
職 業	何々
氏名年齢	何某 何十何年何ヶ月

鑿曲尺三尺横同七寸厚ヲ并ニ木質適宜

明治何年何月何日免許

□ 旅 人 宿 下宿屋 木質宿 屋 號 氏 名

(用紙寸法適宜)

明治何年 宿泊人届 何那何町村何番地族籍
 何月何日 何屋 屋號アルモノハ屋號ヲ掲グ 何 某(印)

宿泊人番號	第何號
投宿月日時	何月何日午前(後)第何時
住 所	何府縣何國何郡區何町村何番地又ハ(何々方同居)
身 分	華士族平民(又ハ神官僧侶又ハ何々)
職 業	何職又ハ何々(官吏ナレハ奉職廳及ヒ官名ヲ記ス)
氏名年齢	何某何年何ヶ月
前夜宿泊所 氏名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方
宿泊ノ事由	何々ノ爲メ
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方(又ハ歸平)
相貌別徴	額上ニ刀傷痕又ハ何々部ニ黒子アリ(又ハ何々)

(全上)

明治何年 宿泊人出立届 何那何町村何番地族籍
 何月何日 何屋 屋號アルモノハ屋號ヲ掲グ 何 某(印)

○宿屋營業取締規則

百四十四

宿泊人番號	前日投宿シタルモノ、番號ヲ掲ク
氏名	前日宿泊シタルモノ、氏名
出立日時	何月何日午前(後)第何時
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方(又、歸宅)
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上

(備考)

○告示第五十三號 明治二十年三月三十日

縣令第九號宿屋取締規則第一章第四條、木賃宿營業場所左ニ示ス

滋賀郡上片原町、下片原町、大谷町、追分町、藤尾村ノ内字横木、衣川村、北小松村
 栗太郡草津村ノ内字横町南裏
 野洲郡吉身郡ノ内字、ノイナカ
 甲賀郡水口村ノ内字片町、松原町、林口村ノ内字門ノ外石部村ノ内字繩手町、東清水町、土山村ノ内字瀧町中ノ街道
 蒲生郡繩手町、長光寺ノ内字横町、武佐村ノ内字島居前、石原村
 神崎郡八日市村ノ内字堂ノ森
 愛知郡愛知川村ノ内字繩手
 犬上郡外船町通東ハ上、西ハ下、南ハ東、北ハ西、高宮村ノ内字向川原
 坂田郡西三ツ矢町、郡上町、春照村、柏原村、醒井村、番場村ノ内字番場島本村、米原村
 東淺井郡速水村ノ内字北町、郡上村ノ内字町間第四百五十五番地ヨリ以北兩側
 伊香郡木ノ本村内字十善寺、柳ヶ瀬村ノ内字北大門
 西淺井郡檀津濱村ノ内字東ノ内字五十番以東
 高島郡海津町ノ内字中村町、保坂村、今津村ノ内字北濱、安井川村ノ内字河原市、勝野村ノ内字打原、市場村ノ内字下市、古屋村

○運送營業取締規則

○運送營業取締規則

百四十五

カラヌ(二十一年縣令第百三十七號ヲ以テ追加)

第十五條 營業人ハ運送物ニ不審ト見認ムルモノアル時ハ警察官吏ニ密告スヘシ

第二章 營業組合

第十六條 營業人ハ一ノ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入ラザルモノハ運送營業ヲナスコトヲ得

ス

第十七條 營業人ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ組合取締所ヲ設ケ又取締上必要ノ地ニ出張所ヲ設クヘシ

第十八條 取締所ニ正副取締人各一名出張所ニ副取締人一名宛テ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受ク

ヘシ

但便宜地區ヲ定メ總代人ヲ置クコトヲ得

第十九條 組合ニ於テハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 取締所及出張所ノ位置
- 一 取締人撰擧法及任期
- 一 取締人事務條項及權限
- 一 組合ニ係ル費用ノ豫算及徵收方法
- 一 組合會議ニ關スル規程

一 賭賃錢手数料等ノ定額

一 身元金保管法

一 物貨取扱法

一 傭人及稼業人ニ關スル規程

一 損害賠償ノ方法

一 違約者處分法

一 前各項ノ外營業上必要ノ件

第二十條 取締人ハ丁年以上ノ男子ニシテ縣下ニ本籍ヲ有シ且ツ名望ト相當ノ財産ヲ有スル者ヲシヘシ

第二十一條 取締人被撰者中適任ノ者之ヲナキカ又ハ撰任後不適任ト見認ムルトキハ改撰ヲ命ズ

第二十二條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項概テ左ノ如シ

- 一 組合營業人願屆書等ニ連署スル事
- 一 組合營業人名簿ヲ製シ増減異動アル毎ニ訂正加除スル事
- 一 組合營業人ニ費用ノ決算報告ヲナス事
- 一 運送營業上ニ關シ意見ヲ縣廳ヘ具申スル事

一 違約者ヲ處分スル事

一 前各項ノ外取締上ニ關スル一切ノ事務及組合規約ニ於テ定メタル事項ヲ取扱フ事

第三章 運送請負營業

第二十三條 運送物ノ荷造粗造コシテ運送中濡沾漏脱等ノ難ヲ防シ能ハサルト思慮スル時ハ荷主ヲシテ改造セシムヘシ

第二十四條 送狀ヲ添付セサル運送物ハ取扱フヘカラス又送狀ニハ左ノ各項ヲ詳記セシムヘシ

一 荷主及届先ノ住所姓名並ニ差出年月日

一 物品ノ種類價格及個數斤量

一 貨錢ノ拂方(前拂先拂等)及運送方(馬車便漚船積和船積等)ノ區別

前各項ノ外運送上必要ノ件

第二十五條 運送物ヲ受取タルトキハ前條ニ倣ヒ詳記シタル受取証ヲ渡スヘシ

第二十六條 運送物他ヨリ到着セシ時ハ損害ノ有無等ヲ點檢シ若シ異狀アリト思慮スルモ外面ヨリ認メ難キトキハ組合役員ノ檢査ヲ經其事由ヲ記シタル書面ニ証印ヲ受ケ送狀ニ添付發送スヘシ

第二十七條 到着セシ運送物ニ損害アル時ハ組合役員ノ檢査ヲ受ケ其狀況ヲ詳記シタル書

面ニ証印ヲ受ケ添付發送スヘシ

第二十八條 組合役員ニ於テ前條檢査ヲナシタルトキハ其繼越タル地ノ組合役員ニ急報スヘシ其急報ヲ受ケタル組合役員ニ於テハ速ニ其事由ヲ取調差立元營業人及荷主ニ發送スヘシ

第二十九條 營業人ハ各一機ナシ繼立帳ヲ製シ運送物ノ種類員數價格價錢發着時刻及損害ノ有無等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第三十條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經テ變更スルハ此限ニアラス

第三十一條 前各條ノ外別段成規アルモノハ其成規ニ從フヘシ

第四章 廻漕營業

第三十二條 荷物ノ積卸及廻漕中濡沾破損等之レナキ機丁ニ取扱フヘシ

第三十三條 廻漕中荷主ノ承諾ヲ經スルヲ他ノ營業人ト荷替ヲナスヘカラス

第三十四條 營業人ハ陸路運送ノ依託ヲ受シヘカラス

第三十五條 廻漕中他船ト連力ヲ競争シ其他危險ノ所業ヲナスヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ廻漕ヲナスヘカラス

第三十六條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經テレモノハ此限ニテラス

第三十七條 營業人ハ各一様ナル帳簿ヲ製シ運送物ノ種類員數價格賃錢及受授ノ時日等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケル外第三章第二十二條第二十三條第二十四條第三十條ヲ遵守スヘシ

第五章 人馬繼立營業

第三十九條 營業人ハ各一様ナル繼立帳ヲ製シ繼立ノ都度賃錢及繼立地名並ニ稼業人ノ姓名等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十條 關シテ繼立ヲ拒ミ又ハ故ナク遲緩スヘカラス

第四十一條 繼立ニ使用スル人足ヘハ營業人ヨリ其雇人タルノ証票ヲ渡シ之ヲ携帯セシム

第四十二條 繼立ノ順序ハ急行ヲ除ク外申込ノ前後ニ從フヘシ

第四十三條 人足途中ニ於テ荷物ヲ損害シ與フル等ノ事アル時ハ營業人其責ニ任スヘシ

第六章 小飛脚營業

第四十四條 營業人ハ平素運送スル地名ヲ組合取締所ヘ届出且重ナル地名ヲ業名標ニ記入スヘシ

第四十五條 營業人ハ各地繼立ヲ要スル荷物ノ運送請負スヘカラス

第四十六條 荷物ノ受渡ハ必ズ帳簿ニ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十七條 平素發送時日ヲ定メオシモノハ必ズ其日時ニ發送スヘシ

第四十八條 發送ノ途中他ノ營業人ノ荷替ヲナスヘカラス

第四十九條 營業上ニ使用スル雇人ノ姓名年齢等ハ組合取締所ヘ届置シヘシ

第七章 罰則

第五十條 此規則第二條第三條第八條第十條第十一條第十三條第十四條第二十九條第三十條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條第四十一條第四十四條第四十五條第四十六條第四十八條第四十九條ニ違背スルモノハ違警罪トシ

一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(二十年縣令第百三十七號ヲ以テ改正)

附則

一從來ノ營業者ニテ引續營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出許可ヲ受クヘシ

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰舉シ認可ヲ受クヘシ

塵曲尺三寸横同七寸厚並ニ木質適宜

塵曲尺四寸横三寸紙質適宜

何々營業 住所 氏名

取締所烙營

年月日
何々營業鑑札
滋賀縣運送營業取締所

取締所印

滋賀縣近江國何那何町村	何	某
何番地		
明治何年		
何月何日		

取締所捺印

新聞紙雜誌雜報受賣取締

○縣令第四十六號 明治二十一年二月二十四日
新聞紙雜誌雜報ノ發賣又ハ受賣營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類

ヲ記載シ開業三日以前ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ若シ其種類ノ増減スルカ又ハ轉居廢業等爲シタルトキハ全權届出ヘシ
從前營業者ニシテ猶繼續營業セントスル者ハ十日以内ニ前全權届出ヘシ
右違反ノ者ハ刑法第四百二十七條ノ刑ニ處ス

威統免許取締規則

明治二十五年十一月二十二日 本縣令第六十七號

第一條 空砲ヲ發シ自己ノ山林田野ヲ害スル鳥獸ヲ驅逐セントスルモノハ被害ノ狀況及期限并ニ職業族籍住所氏名年齢ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄郡長ヘ届出免許鑑札ヲ受クヘシ

但家族又ハ雇入ヲシテ發砲セントシト欲スルモノハ戶主ヨリ届出ツヘシ

第二條 免許鑑札ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シ又ハ亡失シ若シ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ書換ヘ又ハ再渡ヲ乞フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ亡失シタル者ヲ前項ニ依ルノ外尙ホ所轄警察官署ニ届出ヘシ
第十六才未満ノモノハ免許ヲ受ケルヲ得ス

第四條 威統免許期限中免狀ヲ得スレテ狩獵法ニ規定セル乙種ノ狩獵ヲナシ同法第二十條ノ處分ヲ受ケタルトキハ威統免許ノ効ヲ失ヒ且滿一ケ年間再ヒ威統免許ヲ受ケルヲ得ス
(廿八年九月二十八日縣令第三十八號改正)

威統免許取締規則

○威銃免許取締規則

第五條 用銃ハ銃砲取締規則第五則ノ定ムル免許ノ種類ニ限ル

第六條 發砲ノ際ハ必ズ免許證札ヲ携帯スヘシ若シ警察官町村長ヨリ於ケル其關覽ヲ求ムル
申ハ直チニ之ヲ示スヘシ

第七條 本則第一條ニ據リ免許ヲ得ヌレバ發砲シ又ハ第六條ニ違背シタルモノハ一日以上
三日以下ノ拘留又ハ三十拾錢以上壹圓ニ拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一本則改正以前ニ空砲發射ノ免許證札ヲ受ケタルモノハ本則改正後ト雖モ其期限間ハ有効
トス

威銃免許證札雛形

(明治廿五年十一月十二日
本縣訓令第二百十三號)

(郡役所)

明治二十五年十一月十二日 本縣令第六十七號 威銃免許取締規則第一條ニ據リ下付スヘキ免許證札ハ
左ノ雛形ニ據ルヘシ

第 號
威銃免許證札
明治何年何月何日

族籍	住所	氏名	年齡	場所	期限
			年 月		自明治 年 月 日 至明治 年 月 日

滋賀縣令第二十四號

狩獵ニ關スル願屆手續左ノ通定ス

明治二十八年六月十二日

滋賀縣知事 大越 亨

狩獵ニ關スル願屆手續

第一條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ狩獵法施行細則第三條ニ揭シル外尙願書ニ左ノ事
項ヲ記載スヘシ

一 所得稅及地租稅額

一 二等ニ相當スル家族ナルトキハ戸主ノ住所氏名

第二條 禁獵制札建設願書ニハ其禁獵區域及建札ノ位置等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ提出ス
ヘシ

第三條 禁獵制札建設ノ免許ヲ受ケタルモノハ狩獵法施行細則第七條雛形ニ依リ制札ヲ調
製シ禁制文ノ記載ヲ請フヘシ但シ廢朽其ノ他ノ事故ニ依リ再設ヲ要スルトキ亦同

第四條 學術研究其他特別ノ理由ニ因リ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキハ願書ニ左ノ事故ヲ記載
シ許可ヲ受クヘシ (廿八年九月本縣令第三十七號) (以テ保護ノ二字削除)

○威銃免許取締規則

○威統免許規則

一 捕獲ノ要スル理由及其方法
 一 鳥獸ノ種類及其負數

三 捕獲期限

四 捕獲者ノ住所族籍職業氏名及年齡

第五條 有害鳥獸ノ驅除ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ許可ヲ受ルヘシ
 一 被害ノ狀況及其區域

二 加害鳥獸ノ種類

三 驅除方法及其期限

四 驅除者ノ住所族籍職業氏名及年齡

第六條 第四條ノ許可ヲ受タル者ハ第一號表式ニ依リ捕獲表ヲ第五條ノ許可ヲ受タル者ハ第二號表式ニ依リ驅除表ヲ調製シ期限終了後五日以内ニ差出スヘシ但免許期限翌月ニ沙レトキハ前月分ヲ翌月五日迄ニ差出スヘシ

「第一號表式」

(廿八年九月本縣令第三十七號)
 以テ保證ノ二字ヲ削除ス

鳥獸捕獲表

明治何年何月何日ヨリ 免許人住所氏名
 全 年何月何日マテ

鳥獸名	雄	雌	牡	牝	計	捕獲人 郡村大字	氏名

備考學術研究其他ノ理由ニ依リ某地方ニ於テ捕獲云々

年 月 日 住 所 免許人氏名印
 滋賀縣知事氏名殿

「第二號表式」

有害鳥獸驅除表

明治何年何月何日ヨリ
 全 何月何日マテ

鳥獸名	數	被害狀況	驅除者 郡村大字	氏名

○威統免許規則

備考					
年月日					
住	免許人氏名印				
滋賀縣知事氏名殿					

滋賀縣訓令第三十四號

郡 役 所

狩獵ニ關スル願届取扱手續左ノ通相定メ明治二十五年^{十一月}本縣訓令第百二十一號ヲ廢止ス

明治二十八年六月十二日

滋賀縣知事大 越 亨

狩獵ニ關スル願届取扱手續

第一條 免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年六月三十日限リ本縣知事ニ請求スヘシ

第二條 免狀原簿ハ左記ノ離形ニ據リ調製シ免狀下付ノ際之ニ番號獵者ノ住所族籍職業氏

名及年齢ヲ登錄スヘシ

第三條 免狀ニハ狩獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ記入シ廳印ヲ捺捺スヘシ

第四條 免狀ヲ亡失シタル者アルトキハ其事由種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ本縣公報ニ登載公告スヘシ

第五條 狩獵者ヨリ返納シタル免狀ハ之ヲ裁斷シ概算ヲ以テ受領シタル免狀ニ別關アルハ狩獵免狀統計表進達ノ際返戻スヘシ

第六條 保護鳥獸捕獲表及有害鳥獸驅除表ハ毎月十日限リ前月分ヲ取纏メ差出スヘシ
「免狀原簿離形」

表

紙

狩獵免狀原簿
何々郡役所

何等甲(乙)種免狀ノ部

「△ハ朱書」

免狀番號	事由	免狀交付年月日	族籍職業	住所氏名
自何號 至何號	概算請高			
一號	何年何月何日返納濟	何年何月何日平民農業	何郡何村大字何々第何番屋敷 何 某	
二號	何年何月何日亡失届出			
三號				
合計				何人
自何號 至何號	何年何月何日返納濟			

凡例

滋賀縣訓令第二十四號參照

滋賀縣訓令第百一十一號 (明治二十五年十一月十二日公報)抄錄

狩獵免狀、毎年使用高、概算、其年六月中ニ知事ニ請求スヘシ (參照)

農商務省訓令第第四號

警視廳 北海道廳府廳 東京府

狩獵法取扱手續左之通相定ム

明治廿八年三月廿七日

狩獵法取扱手續

農商務大臣 子爵榎本武揚

第一條 狩獵法第十九條第一項ニ據リ鳥獸ノ捕殺ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數捕獵期限ヲ定ムヘシ

全條第二項ニ據リ有害鳥獸ノ驅除ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認ムル場合ニ限リ驅除期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ

本條第一項ノ捕獲許可ノ期限ハ三週日以内トス

第二條 第一條ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸ノ名稱及員

○ 狩獵法取扱手續

備考							

第三號表式

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

廳府縣名

免狀下付高	免狀受取高	種目	一	二	三	計

免許稅	免狀再渡高	免狀再渡手 數料	狩獵禁止地 名	新設地名 何々々			
				解除地名 何々々			

(參照)

農商務省令第四號

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

明治二十八年三月二十七日

農商務大臣子爵 榎本武揚

狩獵法施行細則

- 第一條 狩獵法第一條ニ掲ケル各種ノ網ハ罾罾、投網、霞網其他ノ張網トシ網繩ハ流シ罾、張繩トシ又採ハ高換平本採トス
- 第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所該籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキ

○ 賦稅免許取締規則